

1 基本理念

～スポーツの力でさっぽろの「未来」をつくる～
スポーツ元気都市さっぽろ

札幌は、人口190万人を超える大都市でありながら、郊外には豊かな自然があり、様々なスポーツに親しむことができます。特に、冬季には降雪量が6m近くになり、ウインタースポーツも楽しむことができます。これら世界的に見ても希少な札幌ならではの環境をいかし、我が国初の冬季オリンピックを開催するなど、様々な国際大会を誘致し、スポーツを通じたシティプロモート^{※7}や国際交流に力を入れてきました。現在では、複数のプロスポーツチームの本拠地にもなっており、スポーツを通じて札幌市民としての誇りや一体感も生まれてきています。

スポーツには、「する」ことによる楽しさ、喜びだけでなく、心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、健康寿命^{※1}の延伸など様々な効果があると言われてしています。

また、「する」だけでなく、「みる」ことや「ささえる」ことでも、スポーツの価値を享受することができます。スポーツに関わる市民の誰もが、スポーツの力によって、人生を楽しく元気に、健康で生き生きとしたものにすることができます。

平成27年(2015年)9月に国際連合で採択された「持続可能な開発目標(SDGs:Sustainable Development Goals)^{※27}」の達成に向けても、スポーツは重要かつ強力なツールとして、その役割を期待されており、スポーツの持つ、人々を集める力や人々を巻き込む力などによって貢献していくことが求められています。

また、国が平成29年(2017年)3月に策定した第2期スポーツ基本計画では、全ての人々がスポーツの力で輝き、活力ある社会と絆の強い世界を創るという「一億総スポーツ社会」の実現を目指すこととしています。

札幌市でも、ラグビーワールドカップ2019TMや東京2020オリンピック・サッカー競技の開催、冬季オリンピック・パラリンピック競技大会の招致に向けた取組などにより、市民のスポーツへの関心はこれまで以上に高まることが予想されます。

これらの状況を踏まえ、札幌市においては、今後、より一層、市民誰もがスポーツに多様な形で関わるができる環境を整えていくとともに、スポーツ基本法の理念を踏まえ、市民自治の推進や活力と創造力あふれるまちづくりのために、スポーツの力で、人々がつながり、スポーツの価値を共有することで、人々の意識や行動を変えていくことなどを通じて、「さっぽろ」の発展に寄与することが求められています。

このようにスポーツの力や価値が重要性を増していると考えられる今、引き続き、スポーツの持つ力によって、札幌の未来を創り、札幌市スポーツ推進計画の基本理念である「スポーツ元気都市さっぽろ」の実現を目指します。

※1 【健康寿命】…健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間のこと。平均寿命との差が短いほど、個人の生活の質が高く保たれているとされている
※7 【シティプロモート】…まちの魅力を再発見し、創造することで新しい都市の輝きをつくり出すとともに、市民が誇りをもってその魅力を内外に発信することで、世界の人々と多様な関係をつくり出すための一連の活動
※27 【持続可能な開発目標(SDGs)】…2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標。持続可能な世界を実現するための17の目標(ゴール)と169の取組(ターゲット)から構成されている。

2 3つの目標

本計画の基本理念である「スポーツ元気都市さっぽろ」を実現するため、次の3つの目標を定めます。

目標1 スポーツの力で「市民」がかがやく

市民が地域で「する」「みる」「ささえる」といった様々な形でスポーツに関わり、心身の健康増進、生きがいに満ちた生き方を目指します

スポーツ元気都市さっぽろを実現するためには、市民自らが積極的にスポーツに関わり、親しむことが必要不可欠です。また、スポーツは、その推進を通じて、地域における全ての世代の人々の交流が促進され、かつ、地域間交流の基盤が形成されるものとなるような価値を持つものであるべきです。

スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは全ての人の権利であり、市民が年齢や体力、経験、目的の違いに応じて主体的にスポーツ活動を行うことができるように、行政をはじめとする様々な団体が協働しながら、ソフト面、ハード面における必要な措置を講じていきます。

本計画の目標1では、市民の誰もが生涯にわたって、スポーツの力で、心身の健康増進や生きがいに満ちた生き方を実現できる社会を目指します。

目標2 スポーツの力で「さっぽろ」をかえる

スポーツの力によって、社会の課題を解決したり、まちを活性化させたりすることで、より活力ある「さっぽろ」を目指します

スポーツは誰もが参加できるものであり、スポーツを通じて人々がつながり、スポーツの価値を共有することで、人々の意識や行動が変わり、社会の課題解決につながるなど、「さっぽろ」を変えていく力となります。また、スポーツは多くの人々を集めることができる魅力的な資源でもあり、「さっぽろ」の観光振興や国際交流などの様々な分野においてもいかすことができます。

目標2では、スポーツが「さっぽろ」にもたらすそれらの効果に着目し、障がいの有無や年齢、国籍等を問わず、相互に人格と個性を尊重し支えあい、人々の多様な在り方を認め合う精神を育むことで共生社会^{※3}の実現を目指すとともに、スポーツと観光を融合したスポーツツーリズム^{※8}の推進など、新たな付加価値を生み出すことで、経済や地域の活性化を目指します。

※3 【共生社会】…誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会である

※8 【スポーツツーリズム】…スポーツを「観る」「する」ための旅行そのものや周辺地域観光に加え、スポーツを「支える」人々との交流、あるいは生涯スポーツの観点からビジネスなどの多目的での旅行者に対し、旅行先の地域でも主体的にスポーツに親しむことのできる環境の整備、そしてMICE推進の要となる国際競技大会の招致・開催、合宿の招致も包含した、複合的でこれまでにない「豊かな旅行スタイルの創造」を目指すものである

目標3 スポーツの力で「世界」へつながる

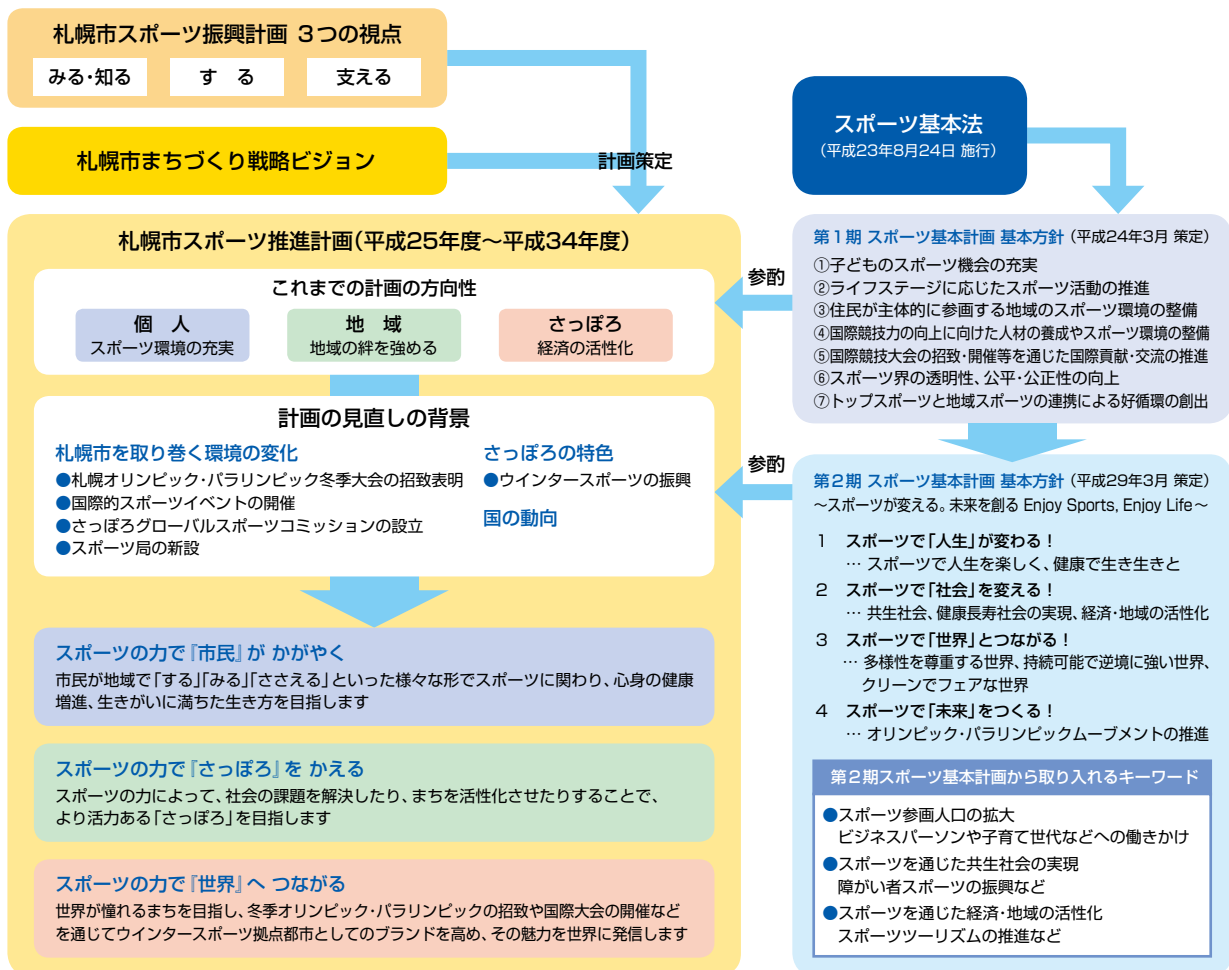
世界が憧れるまちを目指し、冬季オリンピック・パラリンピックの招致や、国際大会の開催などを通じてウインタースポーツ拠点都市としてのブランドを高め、その魅力を発信し、世界につながることを目指します。

昭和47年(1972年)に札幌市でオリンピックを開催してから40年余りが経過し、これまでに様々なウインタースポーツの国際大会を開催してきました。平成29年(2017年)2月に開催した冬季アジア札幌大会では、先のオリンピックで建築された施設をレガシー^{※6}として活用しながら、大会の運営能力を含めて札幌市をアピールしました。

現在、札幌市では2度目となる冬季オリンピック、初めてとなるパラリンピックの招致に向けた取組が進められています。招致から開催までの取組はまちづくりそのものであり、これを成し遂げることで、成熟した都市として都市ブランドとシビックプライド^{※26}を醸成します。

目標3では、これらの取組を通じて、札幌らしいウインタースポーツに親しむ文化を一層浸透させるとともに、世界都市・札幌の魅力を創造、発信し、世界につながることを目指します。

図表23 札幌市スポーツ推進計画改定版の方向性



※6 【レガシー】…オリンピック・パラリンピック開催を契機として社会に生み出される持続的な効果

※26 【シビックプライド】…市民が、都市を構成する一員であることを自覚し、誇りや愛着をもって、都市をより良くしようとする当事者意識

3 成果指標と目標数値

「スポーツ元気都市さっぽろ」の実現のため、具体的な成果指標を設定し、その目標数値を定めています。

なお、今回の改定では、成果指標も見直しを行い、新たに「障がい者のスポーツ実施率」、「直接スポーツ観戦率」、「ウインタースポーツ目的の来札外国人観光客数」を取り入れています。

成果指標		基準値	現状値	目標値
		平成24年度 (2012年度)	平成29年度 (2017年度)	2022年度
①スポーツ実施率	20歳以上 週1回以上 *1	41.2%	56.4%	65.0%
	障がい者 20歳以上 週1回以上 *2	—	43.7%	50.0%
②ウインタースポーツ実施率 (18歳～49歳・年1回以上) *3		—	20.1%	25.0%
③直接スポーツ観戦率 (18歳以上・年1回以上)*4		—	43.6%	50.0%
④ウインタースポーツ目的の 来札外国人観光客数(1月～3月) *5		—	175,000人	250,000人

*1 札幌市が実施する「指標達成度調査(事業の効果に関する市民意識調査)」において、無作為抽出した市内在住18歳以上の男女4,000人を対象に調査票を発送し、過去1年以内のスポーツ(運動)の実施状況をお聞きしています。スポーツには、競技スポーツだけではなく、健康づくりのための散歩やジョギングなどの軽い運動、身体を動かすレクリエーション活動なども含まれます。なお、スポーツ実施率を算出する際には、18歳と19歳の回答者を除いています。

*2 今後強化していく障がい者スポーツの指標として新たに設定しました。札幌市が実施する「障がい者の運動などの活動に関するアンケート調査」において、無作為抽出した市内在住18歳以上の身体障害者手帳又は療育手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方1,000人を対象に調査票を発送し、過去1年以内のスポーツ(運動)の実施状況をお聞きしています。*1と同じく、スポーツには、健康づくりのための運動やレクリエーション活動も含まれます。なお、スポーツ実施率を算出する際には、18歳と19歳の回答者を除いています。

*3 「ウインタースポーツ文化の継承」という視点に重きを置き、調査対象年齢を、これまでの成人すべてから、30歳代までの若い世代と小学生の子を持つ割合の高い40歳代に着目して変更しました。

*4 札幌市が実施する「指標達成度調査(事業の効果に関する市民意識調査)」において、過去1年以内に、テレビなどではなく、直接スポーツを観戦した市民の割合を算出しています。

*5 大会誘致やシティプロモート*7による経済波及効果を示す指標として新たに設定しました。札幌市が実施する「外国人個人観光客動態調査」における札幌滞在中の目的として「ウインタースポーツ・雪遊び」を選択した割合に、冬季(1月～3月)の外国人宿泊者数を乗じて算出しています。

*7 【シティプロモート】…まちの魅力を再発見し、創造することで新しい都市の輝きをつくり出すとともに、市民が誇りをもってその魅力を内外に発信することで、世界の人々と多様な関係をつくり出すための一連の活動

1 施策体系

第4章で掲げた3つの目標を達成するため、7つの方針と15の施策を定めています。

3つの目標		7つの方針		15の施策	
目標1	スポーツの力で「市民」が かがやく	1	ライフステージ ^{※2} や体力に応じたス ポーツ活動の推進	1	子ども、高齢者、子育て世代、ビジネスパーソン ^{※13} の スポーツ参加を目指します
				2	スポーツに親しむための場所や機会を充実させます
				3	ウインタースポーツを振興します
		2	スポーツを通じた 健康増進	4	スポーツを通じて市民生活の質の向上を図ります
				5	冬季における運動習慣を推進します
		3	様々な形・場での スポーツ参加を 促進	6	地域での取組を支援し、地域コミュニティの醸成につなげます
				7	スポーツを支える人材を育成し、活動を促進します
				8	トップスポーツやアスリートと連携を図ります
目標2	スポーツの力で 「さっぽろ」を かえる	4	スポーツを通じた 共生社会 ^{※3} の実現	9	障がい者スポーツを振興します
				10	スポーツを通じた国際交流、異文化理解を推進します
		5	スポーツを通じた 経済・地域活性化	11	札幌の特色をいかしたスポーツツーリズム ^{※8} の推進、 交流人口 ^{※11} の拡大に努めます
				12	札幌のスポーツ資源をいかしたスポーツの楽しみ方を 提供します
目標3	スポーツの力で 「世界」へ つながる	6	「さっぽろ」の 魅力を世界に発信	13	国際大会やスポーツイベントを通じて国内外へ 札幌の魅力を発信します
		7	世界が憧れる ウインタースポーツ の拠点都市へ発展	14	オリンピック・パラリンピックムーブメントを推進します
				15	札幌ブランド、シビックプライド ^{※26} を醸成します

※2 【ライフステージ】…人間の一生において節目となる出来事(出生、入学、卒業、就職、結婚、出産、子育て、退職など)によって区分される生活環境の段階

※3 【共生社会】…誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会である

※8 【スポーツツーリズム】…スポーツを「観る」「する」ための旅行そのものや周辺地域観光に加え、スポーツを「支える」人々との交流、あるいは生涯スポーツの観点からビジネスなどの多目的での旅行者に対し、旅行先の地域でも主体的にスポーツに親しむことのできる環境の整備、そしてMICE推進の要となる国際競技大会の招致・開催、合宿の招致も含まれた、複合的でこれまでにない「豊かな旅行スタイルの創造」を目指すものである

※11 【交流人口】…観光者などの一時的・短期滞在からなる人口。定住人口(その地域に住んでいる人口、居住人口)に対する概念

※13 【ビジネスパーソン】…20歳代から50歳代にかけての働く世代のこと

※26 【シビックプライド】…市民が、都市を構成する一員であることを自覚し、誇りや愛着をもって、都市をより良くしようとする当事者意識

2 各目標の方針・施策

目標1 スポーツの力で「市民」がかがやく

市民が地域で「する」「みる」「ささえる」といった様々な形でスポーツに関わり、心身の健康増進、生きがいに満ちた生き方を目指します

方針1 ライフステージ^{※2}や体力に応じたスポーツ活動の推進

スポーツはそれぞれの適性や関心に応じて行うことができ、一部の人のものではなく市民誰もがその価値を享受することができるものです。

スポーツを「する」ことで誰もが楽しさや喜びを得られ、さらに、継続してスポーツを「する」ことで、勇気、自尊心、友情などの価値を実感するとともに、自らも成長し、心身の健康増進や生きがいに満ちた生き方を実現していくことができます。

ライフステージ^{※2}の中でも、幼少期の運動習慣は、その後の運動能力の向上などに大きく影響すると言われています。

大人になってからも、就職や結婚、出産等の人生の節目や、体力の低下、ケガなどによって、スポーツから離れてしまう人もいます。特に、20歳代から40歳代はスポーツ実施率が低い状況となっており、平成30年7月に開催した市民ワークショップにおいては、市民から「スポーツに対する考え方を転換し、通勤や仕事などの合間にも運動を取り入れてみてはどうか。」などといった提案もありました。

このような現状を踏まえ、幼少期から高齢期まで、市民誰もがライフステージ^{※2}や体力に応じてスポーツを楽しみ、健康や生きがいを得る機会をつくります。

◎：新規事業または新規に検討を行う取組 ☆：既存事業のレベルアップ ・：継続事業

施策① 子ども、高齢者、子育て世代、ビジネスパーソン^{※13}のスポーツ参加を目指します

(1) 子どもがスポーツに参加する機会の提供

将来を担う子どもがスポーツを経験することは、子ども自身の健康な身体と豊かな心を育むとともに、「さっぼる」の未来を変える力になります。

学校や地域等の身近な場所で、子どもがスポーツを楽しめる事業を実施したり、地域に潜在しているスポーツ指導者を掘り起こし、中学校・高等学校のスキー授業へ派遣したりするなど、学校と地域が一体となって、子どもの頃からスポーツを体験できる機会を増やします。

具体的な取組

☆子どものスポーツ参加のきっかけづくり

ウインタースポーツ塾の開催など、子どもを対象とした事業を展開し、子どもの頃から様々な運動に取り組むことができるきっかけをつくります。

※2 【ライフステージ】…人間の一生において節目となる出来事(出生、入学、卒業、就職、結婚、出産、子育て、退職など)によって区分される生活環境の段階
※13 【ビジネスパーソン】…20歳代から50歳代にかけての働く世代のこと

☆地域スポーツ指導者の中学校への派遣

中学校におけるスキー学習などの体育授業に地域のスポーツ指導者を派遣し、スポーツを体験する機会を維持するとともに、学校や競技団体等と連携して、地域のスポーツ指導者としての人材を掘り起こし、地域と学校が力を合わせて子どものスポーツ活動の機会を充実させます。

◎スポーツ施設を戦略的に活用したスポーツを始めるきっかけづくりの検討

子どもたちがスポーツを始めるきっかけとなるよう、様々な種目のオリンピックやパラリンピアンを始めとした元トップアスリートのスポーツ施設への配置などの検討を行います。

•子どもの体力向上推進事業

児童や生徒の体力・運動能力調査の実施等により、札幌の子どもたちの体力について分析をするとともに、運動習慣の確立と体力向上に向けた方策を検討します。

•児童会館 中学生・高校生夜間利用「ふりーたいむ」の実施

市内の児童会館の開設時間を延長することにより、中学生・高校生の放課後の活動場所を確保しスポーツ等を通じた健全育成と、異年齢、異世代の交流の場を作ります。

(2) ビジネスパーソン^{*13}や子育て世代 に対するスポーツ機運の醸成

理由は様々ですが、現在運動をしていない人が、必ずしも運動をしたくない人とは限りません。就職や結婚、出産・子育てを機会にスポーツをしなくなってしまった人や、スポーツに興味の薄い人を対象として、スポーツ活動を促進する取組を展開し、スポーツ実施率の向上を図ります。

具体的な取組

☆スポーツに対する意識の改善

日常生活において気軽に取り組めることもスポーツであるという認識の普及を目指し、例えば、エレベーターやエスカレーターでの移動を階段移動に変えるなど意識の改善を図ります。

☆子育て世代のスポーツ参加に向けた取組

スポーツ施設において、女性や子育て世代などのニーズや意欲にあったスポーツ機会(親子向け教室、託児付き教室等)を提供します。

☆ウォーキング推進キャンペーンの実施

通勤時間や休憩時間などを活用したスポーツの習慣づくりを推進し、スポーツ参画人口の拡大を図ります。

◎スポーツ活動を促進するインセンティブの検討

スポーツを行う習慣のないビジネスパーソン^{*13}などを対象に、スポーツ活動の促進とその継続を図るため、インセンティブが働く手法を検討します。

歩きやすい街(ウォーカブルシティ)を目指して

歩くことは、日頃忙しくて時間がとれない方や運動が苦手な方にとっても、気軽に行うことができるスポーツです。札幌市が実施した調査では、「ウォーキング・散歩」は種目別スポーツ実施率が最も高く、「今後行いたいスポーツ」でも、すべての年代でトップとなっています。▶▶[関連P10・P11](#)

これらを踏まえ、札幌市では、スポーツ参画人口の拡大、そして、スポーツを通じた市民の健康増進を進めていくために、歩きやすい街(ウォーカブルシティ)、そして、歩きたくなる街を目指します。

今後に向けては、ウォーキングの価値や魅力の発信に一層力を入れていくとともに、冬季でもウォーキングを行える環境づくりや、魅力ある歩くスキーコースの設置などについて検討していきます。また、ラグビーワールドカップ2019™など大規模スポーツイベントの開催時においても、そのイベントの持つ話題性や影響力などを活用したウォーキングムーブメントの醸成手法について検討していきます。

関連施策

- 施策① 子ども、高齢者、子育て世代、ビジネスパーソン of スポーツ参加を目指します ▶▶[P41](#)
- 施策④ スポーツを通じて市民生活の質の向上を図ります ▶▶[P48](#)
- 施策⑤ 冬季における運動習慣を推進します ▶▶[P49](#)
- 施策⑬ 国際大会やスポーツイベントを通じて国内外へ札幌の魅力を発信します ▶▶[P63](#)

FUN+WALK PROJECT(スポーツ庁)

普段の生活から気軽に取り入れることのできる「歩く」に着目し、「歩く」に「楽しい」を組み合わせることで、自然と「歩く」習慣が身につくようなプロジェクト。ビジネスパーソンを中心に2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた国民全体の取組として、本格的なスポーツをする人のみならず、日々の暮らしの中で気軽に体を動かす人も含めて、スポーツ参画人口の拡大を進めています。

なお、スニーカー通勤の推奨もこのプロジェクトによるものです。



スポーツ庁HP

(3) 高齢者がスポーツを楽しむ機会の提供

スポーツは達成感や充実感をもたらすほか、健康の維持・増進にもつながります。このため、高齢者が社会の中で元気に活躍し、生きがいを得ていくためにスポーツは非常に有効なものといえます。

高齢者を対象とした大会への選手派遣や老人福祉センターにおける健康増進の場の提供などを通じて、気軽にスポーツに親しむことができる機会を充実させます。

具体的な取組

- ・全国健康福祉祭「ねんりんピック」への選手派遣

スポーツや文化等の交流大会、健康・福祉に関する各種イベントなどが開催される高齢者の総合的な祭典に選手を派遣し、高齢者の健康の保持・増進、社会参加の促進、生きがいの高揚を図ります。

- ・老人福祉センターにおける健康増進の場の提供

地域の高齢者の健康増進を図るため、老人福祉センターにおいて運動や介護予防の機会を提供します。

- ・老人クラブへの活動支援

健康づくり活動などの生活を豊かにする活動等を行っている単位老人クラブや、その活動の育成指導や連絡調整を行う札幌市老人クラブ連合会の活動を支援します。

施策② スポーツに親しむための場所や機会を充実させます

(1) 安心・安全なスポーツ施設の提供

札幌市のスポーツ施設には老朽化が進んでいるものが多く、今後の整備に当たっては、ますます安心・安全な施設環境が求められます。

限られた財源の中で、将来にわたり、市民がスポーツに触れ、楽しむことが可能なスポーツ環境の提供を目指します。また、時代のニーズに合わせて、新たなスポーツへの対応についても検討していきます。

具体的な取組

- ◎新中央体育館(北ガスアリーナ札幌46)の開館

市民のスポーツ活動を支える中核スポーツ施設として、プロスポーツや大規模大会、多様化する市民ニーズに対応が可能な新しい中央体育館(北ガスアリーナ札幌46)を開館します。

- ・スポーツ施設の計画的な保全、改修

市民が安全、安心にスポーツに親しめる環境を維持していくため、スポーツ施設の計画的な修繕や、老朽化したテニスコートや野球場の改修、大型備品の更新を進めます。

- ・将来を見据えたスポーツ施設の再配置、再整備の検討

スポーツ施設の配置・活用計画を策定するとともに、老朽化が進むスポーツ施設の今後の整備方針や、多様化する市民ニーズも踏まえた必要な機能等について検討を進めます。

(2) スポーツを実施する機会の提供・情報発信

スポーツをしない人やあまりしていない人がスポーツに取り組むためには、きっかけがとても重要です。

そのため、市民がスポーツを始めるためのきっかけづくりや、気軽に体験できる機会を提供するとともに、スポーツへの関心を高めるための情報発信を図ります。

具体的な取組

・学校開放の実施

身近で手軽に利用できるスポーツ活動の場として、小中学校の体育施設を市民へ開放します。

☆スポーツ施設供用時間の延長の検討

市民やスポーツ団体のニーズを踏まえ、必要に応じてスポーツ施設の供用時間の延長の検討を行います。

・新たなパークゴルフ場の整備

厚別区の山本処理場の埋立地に造成中の厚別山本公園に、市民が気軽に楽しむことができるパークゴルフ場を整備します。

◎ワールドカップ開催を契機としたラグビー競技の普及

ラグビーワールドカップ2019TM開催を契機にラグビー競技の裾野拡大、競技人口の増加を図ります。

・スポーツ関連情報の効果的な提供

市民のスポーツへの関心を高めるため、公式ホームページや広報紙など、様々な広報媒体を有効に活用しながら、スポーツやイベントに関する情報を効果的に提供します。

・さっぽろ市民カレッジの実施

札幌市生涯学習センターを拠点として、ダンスやフィットネスなど、老若男女が気軽に楽しくスポーツを体験できる講座を提供します。

(3) 官民連携によるスポーツ環境整備手法の研究

今後、社会保障関連経費の増大が予想される中、行政と民間の役割分担や連携を考慮しながら、効果的なまちづくりを進めていく必要があります。そこで、多様化するスポーツ施設に対する市民ニーズに対応するため、民間活力をいかしたスポーツ環境の整備手法について研究します。

施策③ ウィンタースポーツを振興します

(1) ウィンタースポーツの裾野拡大に向けた取組

冬季は雪に包まれる札幌市では、ウィンタースポーツは独特のスポーツ文化といえます。近年はスキー、スケートだけではなく新たなウィンタースポーツも注目されており、これらも含むウィンタースポーツへの参加のきっかけをつくるとともに、市民のウィンタースポーツへの関心を高め、ウィンタースポーツの裾野拡大を図ります。

具体的な取組

☆ウィンタースポーツ塾の開催

小学生を対象として、様々なウィンタースポーツが体験できる機会を創出し、競技人口の裾野拡大を図ります。

☆ウィンタースポーツ少年団の活性化

冬季競技においてトップアスリートを生み出す土台となるウィンタースポーツ少年団の活性化を図るため、体験会の開催や広報などについて支援します。

☆カーリング競技の普及

札幌市カーリング場(どうぎんカーリングスタジアム)で、子ども向け指導プログラムやレベル別講習会などを実施し、競技の裾野拡大や競技力の向上を図ります。

☆ウィンタースポーツインストラクターの派遣

市立中学校・中等教育学校・高等学校・特別支援学校のスキー学習支援としてインストラクターを派遣します。また、市立小学校へ歩くスキー出前授業として指導者を派遣します。

ウィンタースポーツ塾

ウィンタースポーツの裾野拡大と競技力の向上を図るため、子どもを対象にウィンタースポーツを幅広く体験できる機会を提供する「エントリーコース」と、高いレベルの技術指導を受ける機会を提供する「エキスパートコース」を開設しています。

今後は、さらに多くの子どもたちがウィンタースポーツを体験できるよう、体験機会を増やすことを目指します。また、ウィンタースポーツ少年団やクラブチームで継続的に競技に取り組む子どもたちを増やすほか、競技力の向上にも努めていきます。

〈体験競技〉

スノーボード、リュージュ、スキージャンプ、クロスカントリースキー、フィギュアスケート、カーリング



(2) ウィンタースポーツの経済的負担の軽減

ウィンタースポーツを行う上で課題の一つとなるのが経済的な負担が大きいことです。市民ワークショップにおいても、「費用の負担がウィンタースポーツの実施の妨げになっている。」という意見がありました。

市民がウィンタースポーツを行う上で妨げとなる、用具購入や施設利用料などの経済的な負担の軽減を図り、ウィンタースポーツを体験できる機会を増やします。

具体的な取組

・ ウィンタースポーツ実施時の利用料金等の助成

市内すべての小学3年生を対象にスキーリフト料金を助成します。また、市内すべての小学生を対象にスケート場の貸靴料金を夏と冬の年2回助成します。

・ 児童生徒を対象としたリサイクルスキーの提供

市民から不要となったスキー用具の提供を受け、これを希望する児童・生徒に提供します。

・ さっぽろアスリートサポート事業

札幌から世界に羽ばたくトップアスリートの育成を図るため、大会や強化合宿等の参加費用等の負担を軽減し、競技力向上に専念するための土台をつくります。

(3) ウィンタースポーツ競技大会の情報発信

ウィンタースポーツ都市^{*17}として、「する」ウィンタースポーツだけではなく、「みる」ウィンタースポーツの定着も重要な視点の一つといえます。このため、多くの市民にウィンタースポーツ競技大会の情報を発信し、ウィンタースポーツのファンを増やすことを目指します。

具体的な取組

・ ウィンタースポーツシーズンにおける大会情報の発信

☆ウィンタースポーツ競技大会の開催支援

^{*17} 【ウィンタースポーツ都市】…ウィンタースポーツの拠点としての環境・ライフスタイルが充実した都市

方針2 スポーツを通じた健康増進

スポーツは体を動かすという人間の本源的な欲求に応え、精神的充足をもたらすものです。また、スポーツを日常生活に位置付けることで、スポーツの力により人生を楽しく健康で生き生きとしたものにすることができます。スポーツを継続的に適度に行うことで、体力の向上や、健康の増進が期待できます。

超高齢社会^{※12}を迎える中、市民のスポーツ・運動の必要性に対する意識を高め、日常生活から運動習慣を身につけることで、生活習慣病の予防・改善や介護予防を通じて健康寿命^{※1}を延ばすことを目指します。

このため、市民の自主的な運動を引き続き支援していくとともに、企業や関係機関とも連携しながら、市民が日常生活の中で健康行動を継続的に実施できるような有効な取組について検討していきます。

施策④ スポーツを通じて市民生活の質の向上を図ります

(1) 市民の自主的な健康づくりの推進

市民が自ら健康づくりを行えるように、地域の健康づくり活動を支援します。また、運動習慣の定着を目指し、幅広い年齢層が取り組めるウォーキングを推進します。

具体的な取組

・地域における健康づくり活動の支援

市民が自ら健康づくりを行えるよう、地域へ「健康づくりサポーター」を派遣して、ウォーキング、体操、栄養のことなど健康づくりに関する助言や指導を行います。

◎ビジネスパーソン^{※13}・女性の健康づくりの推進

スポーツ実施率の低いビジネスパーソン^{※13}や、健康課題を抱えることの多い女性を対象として、健康診査の受診率向上に向けた啓発を行うとともに、日常生活の中で体を動かす等の健康行動を実施するための仕組みづくりを行います。

・公園などの散策できる場の提供

公園や自然歩道、市民の森などを活用して気軽に散策できる環境を維持していきます。

(2) 健康づくりセンターの活用

市民の自主的な健康づくり活動の場である健康づくりセンターを活用し、個人の健康状態に応じた保健指導、運動の実践、指導を行い、自らの健康状態についての認識を高めることにより、市民の健康づくりを推進します。

また、生活習慣病の重症化予防対象者を始めとした、特に支援が必要な方に対しては、医療機関等と連携し利用促進を図るとともに、長期末利用者に対して勧奨を行っていきます。

※1 【健康寿命】…健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間のこと。平均寿命との差が短いほど、個人の生活の質が高く保たれているとされている

※12 【超高齢社会】…総人口に占める65歳以上の人口割合が21%を超える社会のこと。なお、7%以上14%未満を「高齢化社会」14%以上21%未満を「高齢社会」と呼ぶ

※13 【ビジネスパーソン】…20歳代から50歳代にかけての働く世代のこと

【健康づくりセンターについて】

各センターには運動指導室やストレッチルームなどを備えており、市民の健康状態に応じた運動教室も実施しています。

- 中央健康づくりセンター ●東健康づくりセンター ●西健康づくりセンター

具体的な取組

・健康度測定の推進

健康づくりに必要な健康状態を把握するための医学的検査、運動負荷試験、体力測定などの検査を行い、これらに基づく個別の運動プログラムなどを作成します。

・有資格者による運動指導の推進

市民の自主的な健康づくりを促進するため、健康運動指導士や理学療法士などが運動指導を行うほか、各区保健センターなどが主催する健康づくり事業へ有資格者を派遣し、集団的運動の実践指導を行います。

施策⑤ 冬季における運動習慣を推進します

(1) 気軽に行うことのできるウィンタースポーツの普及

体力的な問題や時間的余裕がないことなどが、ウィンタースポーツを行う上での妨げとなっていることから、歩くスキーなど、負荷が比較的小さく、冬季に気軽に行うことのできるスポーツを幅広い年代に普及することを目指します。

具体的な取組

・歩くスキーの普及振興

中島公園に歩くスキーコースを開設し、用具の無料貸出を実施するとともに、白旗山競技場の歩くスキー常設コースも無料開放を実施します。

・大通公園ウィンタースポーツフェスティバルの開催支援

雪まつりの残雪を有効活用し、誰もが手軽にウィンタースポーツに触れる機会を提供します。

・カーリング競技の体験機会の提供

札幌市カーリング場(どうぎんカーリングスタジアム)で、体験教室や団体向けのレクリエーションの開催など、気軽にカーリングを体験できる機会を提供します。

(2) 冬の暮らしをいかした健康づくりの推進

冬や雪の価値を再認識し、市民が雪に親しみ、楽しみながら、札幌市らしい健康づくりができるよう支援します。

具体的な取組

- 冬季の健康づくりを兼ねた雪遊びを楽しめる機会の提供

冬季の屋外スポーツ施設やスポーツイベントを活用して、スノーラフティングやチューブすべりなど雪遊びの機会を提供します。

- 冬季における公園(スキー山)の活用促進

市民が身近に雪に親しむことができる場として、一定以上の規模を有し、安全確保が可能な公園においては、スキーやそり遊び等が可能な整備に努めます。

- 雪かき汗かきチャレンジ

自宅周辺や公共性の高い場所等を除雪する活動を通して、児童生徒が雪に親しめるようにするとともに、冬季における運動習慣の定着を図ります。



方針3 様々な形・場でのスポーツ参加を促進

スポーツには、競技としてルールに則り他者と競い合い自らの限界に挑戦するものや、健康維持や仲間との交流など多様な目的で行うものがあります。

また、スポーツは、それをきっかけに多くの出会いを生み出し、そこから人と人とのつながりが生まれます。つながりは参加者同士の交流のみならず、そこに関わる指導者やスタッフ、地域におけるコミュニティの醸成にもつながります。

スポーツを「みる」ことで、極限を追求するアスリートの姿に感動し、スポーツへの憧れを抱きスポーツへの関心が高まります。また、家族や友人が一生懸命応援することは、スポーツを「する」人の力になり、スポーツを「ささえる」ことは、多くの人が交わり共感しあい絆が強くなっていきます。

スポーツを「する」ことだけでなく、「みる」「ささえる」といった関わり方を通して、様々な人と人のつながりをもたらし、スポーツに参加する人の増加を図ります。

施策⑥ 地域での取組を支援し地域コミュニティの醸成につなげます

(1) 地域におけるスポーツ活動の支援

スポーツへの参加を促す上で、身近にそのような機会があることは重要な要素です。このことから、市民が、身近な地域で、主体的にスポーツに親しむことができる機会を確保するとともに、将来にわたって地域住民の多様なニーズに応え、より効果的な活動が展開できるように、地域スポーツクラブ^{※22}の活動を支援します。

具体的な取組

・地域スポーツクラブ^{※22}の活動支援

地域スポーツクラブ^{※22}としての役割を担う体育振興会^{※16}の活動を支援し、講習会講師の紹介や利用可能な助成制度の情報提供などの協力を行うとともに、体育振興会^{※16}主催のイベントが活発に行なわれるよう、助言・指導を行うことで、地域のスポーツ活動の活性化を図ります。

☆地域スポーツ指導者の中学校への派遣(再掲)

中学校におけるスキー学習などの体育授業に地域のスポーツ指導者を派遣し、スポーツを体験する機会を維持するとともに、学校や競技団体等と連携して、地域のスポーツ指導者としての人材を掘り起こし、地域と学校が力を合わせて子どものスポーツ活動の機会を充実させます。

・地域住民が主体となるスポーツ振興事業への支援

地域住民が主体となり実施するスポーツ振興事業に対して助成を行うことで、地域の絆づくりを側面支援します。

※16 【体育振興会】…地域のスポーツ振興を図ることを目的として、学校を拠点として自主管理運営する、地域住民による組織

※22 【地域スポーツクラブ】…住民がその興味又は関心に応じて身近にスポーツに親しむことができるよう、住民が主体的に運営するスポーツ団体

(2) 区の特徴やスポーツ施設を活用したスポーツの普及促進

札幌市ではこれまでも区の特徴をいかした様々な取組を行ってきており、スポーツイベントもその一つです。

人と人がつながるきっかけとして、各区において、地域住民が気軽に参加できるスポーツイベントを実施または支援し、地域コミュニティの形成を促進します。

具体的な取組

・区の特徴をいかしたスポーツ振興事業の実施

各区それぞれの特徴やスポーツ施設を活用して様々な取組を実施します。

各区における取組の例

中央区：大倉山ジャンプ競技場を活用したウィンタースポーツ体験イベントの開催など

北区：麻生球場を活用したスノーホッケー大会の開催など

東区：スポーツ交流施設(つどいむ)を活用したスポーツイベントの開催など

白石区：サイクリングロード(白石こころード)を活用したマラソン大会の開催など

厚別区：野幌森林公園の自然をいかしたウォーキングイベントの開催など

豊平区：札幌ドームを会場にした大型スポーツイベント「スポーツバイキング」の開催など

清田区：白旗山の自然をいかしたスポーツイベントの開催など

南区：南区の豊かな自然をいかしたウォーキング大会の開催など

西区：農試公園を活用した雪合戦大会の開催など

手稲区：手稲山を活用したウォーキングイベントの開催など

施策⑦ スポーツを支える人材を育成し活動を促進します

(1) スポーツボランティア^{※9}の育成と推進

「ささえる」スポーツとして最も代表的なものはボランティアです。近年、各種イベントでのボランティアの活躍はめざましく、必要不可欠な存在となっています。そこで、スポーツボランティア^{※9}「スマイル・サポーターズ^{※21}」を組織し、スポーツを通じたおもてなし体制の充実と市民の多様な活動の機会の創出を図ります。

具体的な取組

・スポーツボランティア^{※9}の活動及び研修機会の提供

※9 【スポーツボランティア】…スポーツイベントや大会の運営のほかにも、スポーツサークルやクラブチームの運営、指導者や審判、地域のスポーツ活動等のボランティアとして携わること指す

※21 【スマイル・サポーターズ】…冬季アジア札幌大会におけるスポーツボランティアの名称。現在も札幌マラソンや北海道マラソンなどのスポーツイベントにおいてボランティア活動を行っている

(2) スポーツ推進委員^{*15}の活動促進

スポーツ推進委員^{*15}は地域を代表してスポーツを「ささえる」重要な役割を担っています。研修や協議会への参加により、スポーツ推進委員^{*15}のスキルアップを図るとともに、スポーツ大会やイベントにおいて積極的に活用することで活動の促進を図ります。

(3) クリーンでフェアなスポーツの推進

近年、スポーツ指導者による暴力行為やアスリート等による違法薬物の摂取などが取り沙汰され大きな問題となっています。

このような事態を防止するためにも、競技団体等と連携しながら、スポーツ関係者のコンプライアンス違反や体罰、暴力等の根絶を目指し、「スポーツ・インテグリティ^{*28}」の啓発に努めます。

施策⑧ トップスポーツやアスリートと連携を図ります

(1) アスリート等の派遣によるスポーツ機会の提供

身近な地域で、特に若い世代がスポーツにふれるきっかけとなるよう、運動部活動・少年団や地域へオリンピック経験者等のアスリートを派遣したり、大学と連携を図ることで、体験会や講習会を実施したりするなど、スポーツ機会の提供と充実を図ります。

具体的な取組

☆アスリートの活用

アスリートの人材バンクなどと連携をとりながら、中学校の運動部活動や少年団にアスリートを派遣することでスポーツに対する意欲・関心の向上を図ります。

☆ウインタースポーツインストラクターの派遣(再掲)

市立中学校・中等教育学校・高等学校・特別支援学校のスキー学習支援としてインストラクターを派遣します。また、市立小学校への歩くスキー出前授業として指導者を派遣します。

◎大学のスポーツ資源をいかした連携

札幌圏の大学と連携して大学が持つスポーツ資源を活用することで、地域のスポーツ活動の活性化や、子ども達のスポーツ振興の促進を図ります。

(2) アスリートの育成支援

地元出身のアスリート輩出は、地元の誇りにもなり、市民がスポーツに取り組もうとする動機にもつながります。

次世代のトップアスリートを育成するため、大会・強化合宿等の参加経費の個人負担分の補助や、支援企業との橋渡しを行うことで、札幌から世界に羽ばたく選手の育成を支援します。

また、一線を退いた札幌市出身のトップアスリートのセカンドキャリアを活用し、次世代のトップアスリートの発掘・育成を行うなど、アスリートの発掘からセカンドキャリアの活用までの好循環を生み出します。

^{*15} 【スポーツ推進委員】…スポーツ基本法第32条に基づき、市町村教育委員会が委嘱する非常勤の職員(任期2年)。各地域のスポーツ関係団体と連携を図り、全市及び各区スポーツ事業等の企画・運営及び指導を行うなど、地域スポーツの振興に取り組んでいる

^{*28} 【スポーツ・インテグリティ】…ドーピング、八百長、違法賭博、暴力、ハラスメント、差別、団体ガバナンスの欠如等の不正がない状態であり、スポーツに携わる者が自らの規範意識に基づいて誠実に行動することにより実現されるものとして、国際的に重視されている概念

具体的な取組

◎スポーツ施設を戦略的に活用したアスリートの発掘

子どもたちがスポーツを始めるきっかけづくりや、札幌から世界に羽ばたくトップアスリートを育成するために、様々な種目のオリンピックやパラリンピアンを始めとした元トップアスリーのスポーツ施設への配置などの検討を行います。

・さっぽろアスリートサポート事業(再掲)

札幌から世界に羽ばたくトップアスリーの育成を図るため、大会や強化合宿等の参加費用等の負担を軽減し、競技力向上に専念するための土台をつくります。

◎スポーツ団体と企業とのマッチング制度の検討

支援を必要とする競技者や少年団等とスポーツへの支援に興味を持っている企業を結び付ける方法について検討を行います。

トップアスリートと地域におけるスポーツ活動の好循環

市民がオリンピックなどのトップアスリートと身近に触れあう機会は、スポーツへの関心を高めるきっかけとなり、観戦文化の醸成や競技人口の拡大につながっていきます。

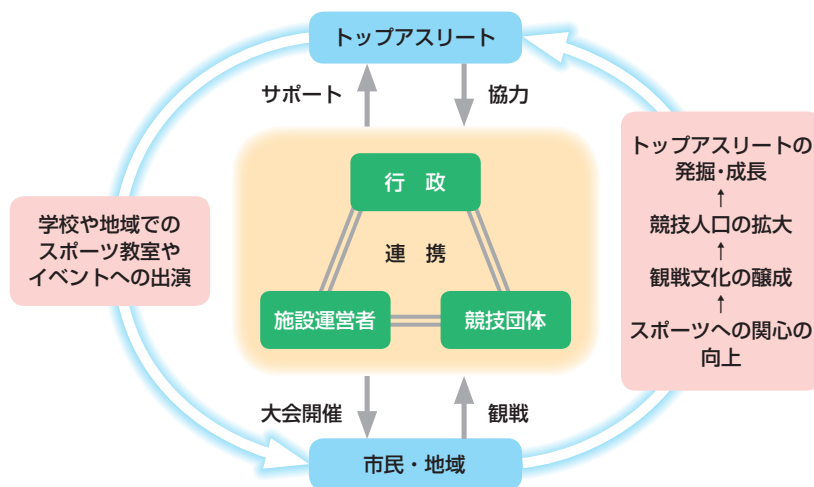
このため、これまでの学校や地域との連携に加えて、施設運営者や競技団体との連携を強化していくことも重要です。今後は、スポーツ施設でトップアスリートのセカンドキャリアなどを活用しながら、例えば、スポーツ少年団における選手育成や競技力向上を図ることで、次世代のアスリートの育成へとつながる好循環を目指します。



アスリートのセカンドキャリアを活用した選手育成等



学校や地域へのアスリート派遣(セカンドキャリアの活用等)



(3) プロスポーツチームとの連携によるスポーツ振興

スポーツの裾野を広げ、競技人口の拡大や観戦文化の定着を図るために、市民がトップスポーツを見ることを積極的に推進するとともに、市民がトップスポーツチームとふれあう機会を増やします。

また、トップスポーツチームと連携して、その持つスポーツ資源や蓄積された運営ノウハウなどをいかして、スポーツの振興を目指します。

具体的な取組

☆プロスポネットSAPPOROによる取組

「プロスポネットSAPPORO」と連携・協力して、観戦機会の充実による「みる」文化の醸成を図るとともに、地域やアマチュアスポーツ団体への指導などを行います。

・北海道日本ハムファイターズ屋内練習場の市民開放

ファイターズが屋内練習場を利用しない日時を活用し、市内小中学生チームへの開放を図ります。

◎北海道コンサドーレ札幌との連携によるウィンタースポーツの普及振興

コンサドーレの情報発信力や興行ノウハウをいかし、ウィンタースポーツの普及振興やアスリートの育成を目指します。

プロスポネットSAPPORO

「スポーツの力でまちを元気に！ プロスポーツのあるまちSAPPORO」

札幌市に本拠地を置く3つのプロスポーツチーム(北海道日本ハムファイターズ・北海道コンサドーレ札幌・レバンガ北海道)と連携・協力して、共通目標である「スポーツを通じたまちづくり」を進めていくため、平成25年(2013年)3月に「プロスポネットSAPPORO」を設立しました。

平成30年度よりエスポラーダ北海道が加わり、4つのプロスポーツチームと札幌市が持つ力を結集し、より高いレベルで目標の実現を目指します。



©HOKKAIDO NIPPON-HAM FIGHTERS



©CONSADOLE



©LEVANGA HOKKAIDO



©ESPOLADA

協力内容

- ・スポーツの裾野の拡大、観る文化の醸成
- ・スポーツ振興、アマチュアスポーツの支援
- ・シティプロモート^{*7} やスポーツツーリズム^{*8} の推進

*7 【シティプロモート】…まちの魅力を再発見し、創造することで新しい都市の輝きをつくり出すとともに、市民が誇りをもってその魅力を内外に発信することで、世界の人々と多様な関係をつくり出すための一連の活動

*8 【スポーツツーリズム】…スポーツを「観る」「する」ための旅行そのものや周辺地域観光に加え、スポーツを「支える」人々との交流、あるいは生涯スポーツの観点からビジネスなどの多目的での旅行者に対し、旅行先の地域でも主体的にスポーツに親しむことのできる環境の整備、そしてMICE推進の要となる国際競技大会の招致・開催、合宿の招致も包含した、複合的でこれまでにない「豊かな旅行スタイルの創造」を目指すものである

目標2 スポーツの力で「さっぽろ」をかえる

スポーツの力によって、社会の課題を解決したり、まちを活性化させたりすることで、より活力ある「さっぽろ」を目指します

方針4 スポーツを通じた共生社会^{※3}の実現

年齢、性別、障がいの有無等に関わらず、スポーツは誰もが参加できるものであり、全ての人々が関心や適性等に応じて、安全で公正な環境の下で日常的・自発的にスポーツに参加する機会を確保することが重要です。

また近年、人種差別やヘイトスピーチなどが社会問題になっていることから、子どもの頃から、スポーツを通じて他者への敬意や多様性を尊重できる心を育てていくことも必要です。

子ども、高齢者、障がいのある方、女性、外国人などを含め、全ての人々が分け隔てなくスポーツに親しむことで、心のバリアフリー^{※5}や共生社会^{※3}の実現へとつながります。

市民ワークショップにおいても、「障がいの有無に関わらず、一緒にスポーツができる環境整備が重要である。」という意見がありました。

多様な人々がスポーツを通じて社会に参加することができるよう、スポーツを楽しむ環境を充実させるとともに、そのための活動を支援します。

施策⑨ 障がい者スポーツを振興します

(1) 障がい者スポーツの普及・振興の促進

障がいのある方の生きがい、生活の質の向上や運動機能の維持、回復のためには、スポーツは有効な手段であり、障がいのある方の自立に役立つとともに、他の方との相互理解を生み出します。

このことから、障がい者スポーツの活動場所の拡充や体験用競技用具の配置、指導者の育成などを通じて、障がいのある方がスポーツを楽しむことができる環境づくりを進めます。

具体的な取組

- ◎区体育館における障がいのある方の利用促進
- ◎障がい者スポーツ指導者養成講習会の開催
- ◎障がい者スポーツ普及促進協議会の設置

※3 【共生社会】…誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会である

※5 【バリアフリー】…高齢者や障がいのある方などが、社会生活をしていく上で障壁となるものを除去すること。道路、建物、交通手段など物理的なものだけでなく、社会的、制度的、心理的なものを含めた全ての障がいを無くすこと

(2) 障がい者スポーツの拠点づくり

障がい者スポーツ振興のためには、その核となる場の整備も重要です。

市立札幌みなみの杜高等支援学校を拠点とした障がい者スポーツクラブの開設を検討し、障がいのある方が継続的にスポーツに親しめる環境をつくります。

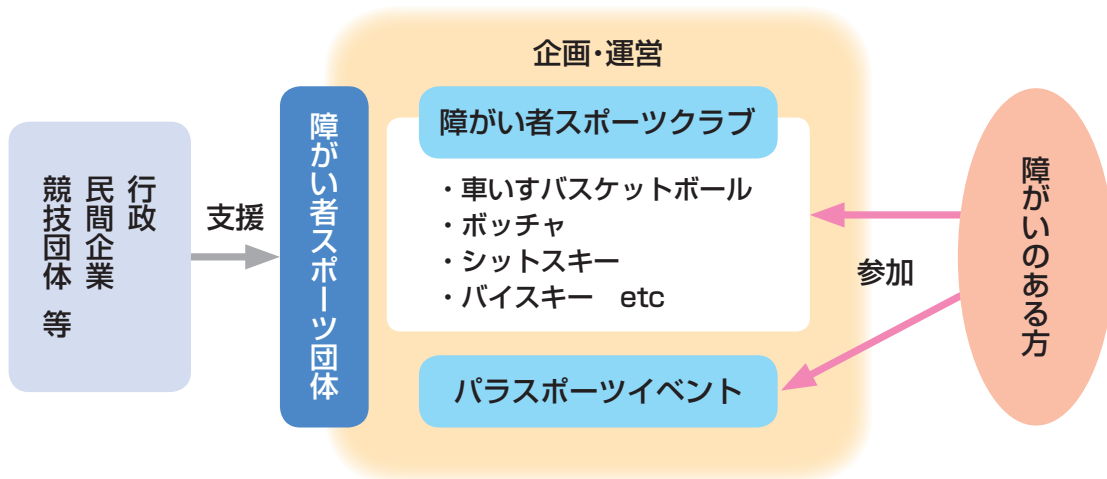
障がい者スポーツクラブ

障がい者スポーツの活動の場の拡充を目的として、平成29年9月より、市立札幌みなみの杜高等支援学校(札幌市南区真駒内上町4丁目)の体育館において、障がい者スポーツ専用の学校開放を開始しました。

開設初年度の利用率は42.5%でしたが、平成30年度は65.8%(平成30年12月現在)となっています。

今後は学校開放を継続しながら、この市立札幌みなみの杜高等支援学校を拠点に、障がい者スポーツの裾野拡大、競技力向上を図る「障がい者スポーツクラブ」の開設に向けて検討を行っていきます。

〈障がい者スポーツクラブの将来イメージ〉



(3) 障がい者スポーツ大会の開催や選手派遣への支援

障がい者アスリートがチャレンジする機会を提供するため、札幌市障がい者スポーツ大会(すすらんピック)等のスポーツ大会の開催費用や、市外で開催される大会への選手の派遣費用等の一部を助成し、障がいのある方のスポーツ大会への積極的な参加を促します。

また、大会の周知を図ることで、障がいのある方のスポーツ大会への参加を促進します。

(4) スポーツ施設のアクセシビリティ^{※29}向上

施設の改修に併せて、スロープや手すり、オストメイト対応トイレの設置等、ハード面のバリアフリー^{※5}対策を行うとともに、点字やサイン等の情報のバリアフリー^{※5}対策を実施し、障がいのある方や高齢者においても施設を利用しやすくします。

具体的な取組

・スポーツ施設の計画的な保全、改修

障がいのある方や高齢者にとっても、安全にスポーツに親しめる環境を維持していくため、スポーツ施設の計画的な修繕や、老朽化した大型備品の更新を進めます。

・障がいの種別や特性を考慮した誰もが利用しやすいスポーツ施設の運営

障がいのある方は、その種別によって求められる対応が全く異なる場合があることから、例えば、コミュニケーションボード^{※30}を活用するなど、それらの特性を理解し、それぞれに適した対応に努めます。

◎スポーツ施設におけるバリアフリー^{※5}マップ導入の検討

障がいのある方がスポーツ施設を利用するときには有効となるバリアフリー^{※5}マップの導入にむけて検討を進めます。

・スポーツ施設ホームページのアクセシビリティ^{※29}向上

年齢や障がいの有無を問わず、誰にとっても分かりやすく利用しやすいホームページとなるよう努めます。

※5 【バリアフリー】…高齢者や障がいのある方などが、社会生活をしていく上で障壁となるものを除去すること。道路、建物、交通手段など物理的なものだけでなく、社会的、制度的、心理的なものを含めた全ての障がい無くすこと

※29 【アクセシビリティ】…年齢や身体障害の有無に関係なく、誰でも必要とする情報に簡単にたどり着け、利用できること

※30 【コミュニケーションボード】…指差しなどにより意思疎通をするため、絵・図や簡易な日本語を記載したボード。知的障がいのある方などとのコミュニケーションを図るため利用される

施策⑩ スポーツを通じた国際交流、異文化理解を推進します

(1) 姉妹都市との国際スポーツ交流の実施

スポーツは言葉を超えた交流を生み出すことができます。このことから、札幌市の姉妹都市とのスポーツ交流を行い、子ども達が異文化への関心を抱くきっかけを生み出します。

具体的な取組

- ・国際親善ジュニアスポーツ姉妹都市交流事業

姉妹都市へ中学生選手団を派遣し、交流試合や合同練習を実施することで交流を深めるとともに、姉妹都市の文化や歴史を学び国際感覚を育みます。

- ・札幌マラソン大会姉妹都市交流事業

姉妹都市提携記念年に該当する都市から、選手団を札幌マラソン大会等に招待することで、相互理解、友好親善を深めます。

(2) スポーツを通じた国際交流の推進

札幌市の国際交流の拠点施設である札幌国際交流館の活用や、国際的なスポーツ大会の開催をきっかけとして、市民と外国人のスポーツを通じた交流を促し相互理解と親善を深めます。

具体的な取組

- ・国際交流館におけるスポーツや健康づくりをきっかけとした異文化理解の促進

「市民と外国人がスポーツ、文化活動等を通じて相互理解及び親善を深めることにより国際交流を推進し、もって札幌市の国際化に資する」という施設の設置目的の達成に向けて各種交流事業を実施します。

- ・国際交流を目的とした国際スポーツ大会への参加支援

スポーツを通じた国際交流を目的として、国外で開催される国際スポーツ大会へ参加する団体及び個人に対して助成金を交付します。

- ◎ラグビーワールドカップ2019™の開催を契機とした国際交流

ラグビーワールドカップ2019™の開催を契機として、参加国等の選手とふれあうことで国際交流を促進するとともに、ラグビーの普及・振興を図ります。

- ・札幌国際スキーマラソン大会の開催を通じた国際交流

大会開催に先立ち、国内選手と海外選手との交流機会として、選手交歓会を開催します。

方針5 スポーツを通じた経済・地域活性化

スポーツは多くの人々を惹きつける魅力的なコンテンツです。人口減少や高齢化が進む中、スポーツ資源を地域の魅力づくりやまちづくりにいかしたり、ウィンタースポーツを核とした札幌らしい産業の創出を目指したりすることで、地域や経済の活性化に貢献します。

札幌市の資源である、大倉山ジャンプ競技場やオリンピックミュージアム、札幌ドームといったスポーツ施設や、札幌マラソン等のスポーツイベントの運営を充実させることで、「さっぽろ」の魅力を向上させて集客力を増やします。

また、スポーツツーリズム^{※8}を推進するとともに、持続性のあるスポーツイベントや大会・合宿の誘致等を行うことで交流人口^{※11}の拡大を目指します。

施策⑪ 札幌の特色をいかしたスポーツツーリズム^{※8}の推進、交流人口^{※11}の拡大に努めます

(1) さっぽろグローバルスポーツコミッションによる取組

札幌市は昭和47年(1972年)の冬季オリンピック開催以来、知名度を上げ、スポーツ環境が整備されてきています。

国内外に向けて、北海道・札幌の豊富なスポーツ資源と恵まれた環境、特に北海道の特徴であるウィンタースポーツ環境をPRし、スポーツを目的とした観光客の誘客を図ります。

具体的な取組

☆スポーツツーリズム^{※8}の推進

- ・海外代表合宿の誘致

※8 【スポーツツーリズム】…スポーツを「観る」「する」ための旅行そのものや周辺地域観光に加え、スポーツを「支える」人々との交流、あるいは生涯スポーツの観点からビジネスなどの多目的での旅行者に対し、旅行先の地域でも主体的にスポーツに親しむことのできる環境の整備、そしてMICE推進の要となる国際競技大会の招致・開催、合宿の招致も包含した、複合的でこれまでにない「豊かな旅行スタイルの創造」を目指すものである

※11 【交流人口】…観光者などの一時的・短期滞在からなる人口。定住人口(その地域に住んでいる人口、居住人口)に対する概念

スポーツツーリズムの推進

スポーツツーリズムの中でも、雪や広大な自然をいかしたウインタースポーツは、札幌市における観光閑散期において、特に大きな魅力になるスポーツといえます。



また、2018年平昌、2022年北京とアジアでの冬季オリンピック・パラリンピックが続き、今後更に、中国を中心としたアジア圏におけるウインタースポーツ人口は急増していくことが見込まれています。

これらを好機と捉え、中国を中心としたアジア圏を対象にするほか、長期滞在型で消費単価の高い欧州・豪州も新たにターゲットに加え、さっぽろグローバルスポーツコミッションとともに、道内スキー場や旅行関連企業等との連携を強化しながら、国内外におけるスポーツ関連の博覧会への出展や、旅行会社やメディアなどの招請を行うなど、良質な雪質はもとより、ウインタースポーツ環境の優位性など、札幌を含め北海道全体が一大スノーリゾートエリアであることを積極的に海外に向けて発信し、交流人口の拡大を図っていきます。



(2) 市民スポーツ大会の開催支援

スポーツ都市としての知名度のさらなる向上を図るとともに、スポーツを「する」目的で、札幌市を訪れる人々を増やすため、さっぽろ健康スポーツ財団等の関係団体との連携により、多くの市民が参加する市民体育大会や札幌マラソンなどの大型市民スポーツイベントを開催し、スポーツ振興とともに交流人口^{*11}の拡大、賑わいの創出を図ります。

<主なスポーツ大会>

・市民体育大会	参加者数	27,109人(平成29年度実績)
・札幌マラソン	参加者数	13,178人(平成29年度実績)
・北海道マラソン	参加者数	18,926人(平成29年度実績)
・札幌国際スキーマラソン大会	参加者数	1,742人(平成29年度実績)
・北海道を歩こう	参加者数	1,453人(平成29年度実績)

*11 【交流人口】…観光客などの一時的・短期滞在からなる人口。定住人口(その地域に住んでいる人口、居住人口)に対する概念

施策⑫ 札幌のスポーツ資源をいかしたスポーツの楽しみ方を提供します

(1) 札幌の魅力をいかした観光資源^{*24}の活性化検討

札幌市は民間の調査による「全国市町村魅力度ランキング」で常に上位に位置するなど、魅力的な都市として国内で高く評価されており、観光に関して恵まれた状況にあるといえます。

今後はこれまでに定着した特定の観光イメージにとどまらず、大倉山ジャンプ競技場や札幌ドームといったスポーツ施設や、スキー場など郊外型観光資源^{*24}を活性化させることで、年間を通じて誘客を図ることができる取組について検討を進めます。

具体的な取組

☆大倉山や札幌オリンピックミュージアムの魅力アップ

ウィンタースポーツの拠点として、大倉山ジャンプ競技場及び札幌オリンピックミュージアムの魅力向上について検討を行い、市民、観光客がともにオリンピックの歴史や価値にふれられる機会を創出するとともに、オリンピズムを発信します。

◎札幌ドームの活用促進の検討

全天候型多目的施設としての機能を生かし、新たなイベントの誘致に向けた検討や、多彩なイベントに対応するための機能の拡充等について検討します。

◎スキーを始めとしたウィンタースポーツ体験の機会創出

国内外の観光客が、スキー場などの郊外型観光資源^{*24}において、冬のアクティビティとして気軽にウィンタースポーツに親しむことができるよう、スキーなどの体験機会を創出します。

(2) プロスポーツチームとの連携によるシティプロモート

札幌市に本拠地を置くプロスポーツチームとスポーツを通じたまちづくりを推進するために設立した「プロスポネットSAPPORO」などを活用し、札幌の魅力をPRすることにより、プロスポーツチームの試合観戦を絡めた観光客の誘客を図ります。

【プロスポネットSAPPORO 構成団体】

北海道日本ハムファイターズ、北海道コンサドーレ札幌、レバンガ北海道、エスポラーダ北海道

(3) 官民連携によるスポーツ環境整備手法の研究(再掲)

今後、社会保障関連経費の増大が予想される中、行政と民間の役割分担や連携を考慮しながら、効果的なまちづくりを進めていく必要があります。そこで、多様化するスポーツ施設に対する市民ニーズに対応するため、民間活力をいかしたスポーツ環境の整備手法について研究します。

*24 【観光資源】…観光やレジャーといった余暇を楽しむ需要に応じられる要素のこと

目標3 スポーツの力で「世界」へつながる

世界が憧れるまちを目指し、冬季オリンピック・パラリンピックの招致や、国際大会の開催などを通じてウインタースポーツ拠点都市としてのブランドを高め、その魅力を発信し、世界につながることを目指します。

方針6 「さっぽろ」の魅力を世界に発信

これまでも、札幌では多くの国際大会やスポーツイベントを開催しており、そのことで蓄積された大会運営のノウハウや豊かなスポーツ資源は、札幌の一つの魅力になっています。

今後国内では、ラグビーワールドカップ2019TMや2020年東京オリンピック・パラリンピックなどの大規模スポーツイベントが開催されます。これに伴い、札幌の競技会場にも国外から多くの方の来場が見込まれています。大会の成功に向けて関係団体との連携を図っていくとともに、これらの開催を好機と捉えて、更なるシティプロモート^{*7}の展開、そして大会開催によるレガシー^{*6}を活用し、札幌の魅力を一層高めていくことを目指します。

スポーツを通じて「さっぽろ」の魅力を世界に広く発信し、冬季オリンピック・パラリンピック招致の実現に向けた機運の醸成にもつなげていきます。

施策⑬ 国際大会やスポーツイベントを通じて国内外へ札幌の魅力を発信します

(1) ラグビーワールドカップ2019TMの開催

世界3大スポーツイベントの一つといわれるラグビーワールドカップの札幌開催に向けた準備を進めるとともに、機運醸成の取組、シティプロモート^{*7}や来札者へのおもてなし等、大会実施効果を高めるための取組を行います。

(2) 東京2020オリンピック・サッカー競技の開催

オリンピック・サッカー競技の札幌開催に向けた準備を進めるとともに、機運醸成の取組、シティプロモート^{*7}や来札者へのおもてなし等、大会実施効果を高めるための取組を行います。

(3) 国際スポーツ会議の誘致に向けた取組

大規模な国際スポーツ総合会議や冬季の国際競技連盟関連会議などを誘致し、スポーツにおける札幌の存在感を高めるとともに、スポーツMICE^{*31}により札幌のインバウンド^{*23}拡大を目指します。

※6 【レガシー】…オリンピック・パラリンピック開催を契機として社会に生み出される持続的な効果

※7 【シティプロモート】…まちの魅力を再発見し、創造することで新しい都市の輝きをつくり出すとともに、市民が誇りをもってその魅力を内外に発信することで、世界の人々と多様な関係をつくり出すための一連の活動

※23 【インバウンド】…外国人観光客が日本に旅行しに来ること

※31 【MICE】…多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。Meeting(会議・セミナー)、Incentive Travel(Tour)(企業報奨・研修旅行)、Convention(大会・学会・国際会議)、Exhibition(イベント、展示会、見本市)の頭文字をとったもの

(4) さっぽろグローバルスポーツコミッションによる取組(再掲)

札幌市は昭和47年(1972年)の冬季オリンピック開催以来、知名度を上げ、スポーツ環境が整備されてきています。

国内外に向けて、北海道・札幌の豊富なスポーツ資源と恵まれた環境、特に北海道の特徴であるウインタースポーツ環境をPRし、スポーツを目的とした観光客の誘客を図ります。

具体的な取組

☆スポーツツーリズム^{※8}の推進

- ・海外代表合宿の誘致



※8 【スポーツツーリズム】…スポーツを「観る」「する」ための旅行そのものや周辺地域観光に加え、スポーツを「支える」人々との交流、あるいは生涯スポーツの観点からビジネスなどの多目的での旅行者に対し、旅行先の地域でも主体的にスポーツに親しむことのできる環境の整備、そしてMICE推進の要となる国際競技大会の招致・開催、合宿の招致も包含した、複合的でこれまでにない「豊かな旅行スタイルの創造」を目指すものである

方針7 世界が憧れるウインタースポーツの拠点都市へ発展

札幌は昭和47年(1972年)冬季オリンピックを契機として、様々な都市基盤^{※4}の整備が進みました。

再びオリンピックを開催することに加え、初めてのパラリンピックの開催を通じて、1972年前後に整備された都市基盤^{※4}の更新や、先駆的なまちづくりモデルの提案を行うことで、全ての人にやさしい冬の豊かなライフスタイル^{※25}を創出することができると考えます。

冬季オリンピック・パラリンピック競技大会の招致などを通じて、アジアそして世界におけるウインタースポーツの拠点都市としてのブランドを高めるとともに、札幌の魅力を世界に向けて発信します。

施策⑭ オリンピック・パラリンピックムーブメントを推進します

(1) 市民の招致機運の醸成に向けた取組

冬季オリンピック・パラリンピックの招致に向け、国や北海道、関係市町村や札幌招致期成会等の経済団体、そして競技団体などと引き続き連携を図ります。また、札幌で開催する意義やオリンピック・パラリンピックの魅力を伝えていくとともに、アスリートの持つ発信力を活用するなど、招致活動そのものの露出を高め、市民を巻き込んだ機運のうねりをつくっていくことで、もう一度オリンピックを、そして初めてのパラリンピックを札幌で見たいという期待感を高めます。

具体的な取組

- ・冬季オリンピック・パラリンピック招致活動
- ・冬季オリンピック・パラリンピック招致活動を通じた道内連携の促進

◎1972年札幌オリンピック50周年記念事業の実施検討

(2) オリンピック・パラリンピック教育^{※32}の推進

1972年の冬季オリンピックを開催した札幌の歴史と共に、文化・国籍・障がいの有無など様々な違いを超え、友情・連帯感・フェアプレーの精神をもって理解し合うことの大切さを学ぶことを通して、生涯にわたって運動やスポーツに親しむ意欲の向上や札幌を愛する心情を育成するオリンピック・パラリンピック教育^{※32}を推進します。

※4 【都市基盤】…鉄道・道路・上下水道・公園・緑地・学校や区役所等の建築物など、都市を構成する基盤となる構造物

※25 【ライフスタイル】…生活様式、営み方。また、人生観・価値観・習慣などを含めた個人の生き方

※32 【オリンピック・パラリンピック教育】…オリンピック・パラリンピックを題材にして、①スポーツの意義や価値等に対する国民の理解・関心の向上、②障がい者を含めた多くの国民の幼少期から高齢期までの生涯を通じたスポーツへの主体的参画の定着・拡大、③児童生徒を始めとした若者に対する、これからの社会に求められる資質・能力等の育成を推進することを目的とした教育

具体的な取組

・オリンピック、パラリンピアンを招へいし、講話や体験活動を行う学校教育

☆札幌オリンピックミュージアムを活用した学校教育の推進

☆大倉山や札幌オリンピックミュージアムの魅力アップ(再掲)

ウインタースポーツの拠点として、大倉山ジャンプ競技場及び札幌オリンピックミュージアムの魅力向上について検討を行い、市民、観光客がともにオリンピックの歴史や価値に触れられる機会を創出するとともに、オリンピズムの発信をします。

施策⑮ 札幌ブランド、シビックプライド^{※26}を醸成します**(1) スポーツを核としたまちづくりの研究**

オリンピック・パラリンピックを契機として老朽化した冬季の施設を更新することに加え、新たなレガシー^{※6}の象徴空間として、すべての人がスポーツを身近に感じられるスポーツと集客機能が共存する施設を整備するなど、まちづくりの中核となるスポーツ施設等の在り方についての検討を行います。

具体的な取組

◎スポーツと集客交流の拠点づくりの検討

スポーツを「する」「みる」「ささえる」様々な機能と、それらと相乗的に集客交流効果を高める機能を集積した拠点づくりについて、高次機能交流拠点への集約も念頭に検討を行います。

・将来を見据えたスポーツ施設の再配置、再整備の検討(再掲)

スポーツ施設の配置・活用計画を策定するとともに、老朽化が進むスポーツ施設の今後の整備方針や、多様化する市民ニーズも踏まえた必要な機能等について検討を進めます。

(2) 冬季版ハイパフォーマンスセンター(HPC)の誘致に向けた取組

冬季競技の練習環境の充実や、ジュニア世代から継続的に育成・強化を図る環境整備などを目的として、冬季版ハイパフォーマンスセンターの札幌市への建設を目指し誘致に向けた取組を進めます。

スポーツ科学・医学・情報を取り入れたトレーニングや、長期合宿等を集中的・継続的に行える拠点を整備することで、競技レベルの向上、ウインタースポーツ人口の拡大が期待でき、オリンピック・パラリンピックなど、世界の舞台で活躍できる人材の輩出を目指します。

※6 【レガシー】…オリンピック・パラリンピック開催を契機として社会に生み出される持続的な効果

※26 【シビックプライド】…市民が、都市を構成する一員であることを自覚し、誇りや愛着をもって、都市をより良くしようとする当事者意識

冬季版ハイパフォーマンスセンター(イメージ)

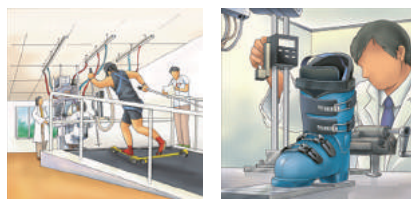
① 冬季競技アスリートの活動拠点

- 周辺の冬季競技施設との連携
- 様々な合宿に対応した宿泊施設の整備
- 様々なアスリート・指導者同士の交流



② 競技レベルの向上

- シーズンを通じた実践トレーニングの実施
- ハイレベルな科学的トレーニングの実施
- スポーツ科学・医学・情報などの先端的な研究



③ ウィンタースポーツ人口の拡大

- 見学会や体験会による裾野の拡大
- 次世代アスリートの育成・発掘

④ 障がい者スポーツ環境の整備

- 障がい者アスリートの活動拠点
- アクセシビリティの向上
- 障がい者スポーツの振興
- 心のバリアフリー化



味の素ナショナルトレーニングセンター



国立スポーツ科学センター

〈冬季版HPCに期待される効果〉

① 冬季競技アスリートの活動拠点

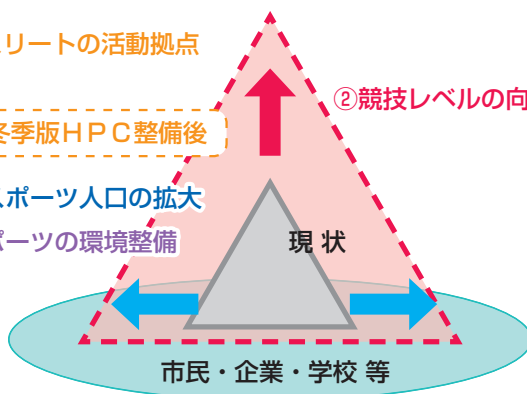
② 競技レベルの向上

冬季版HPC整備後

③ ウィンタースポーツ人口の拡大

④ 障がい者スポーツの環境整備

現状



(3) 地元出身アスリートの発掘・育成体制等の研究

アスリートは、不断の努力の積み重ねにより人間の可能性を追求しており、その活躍や努力は人々に希望を与え、チャレンジする勇気をもたらします。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会や国際スポーツイベントの開催を好機として捉え、未来を担う世代の世界への飛躍を支援します。

具体的な取組

◎スポーツ施設を戦略的に活用したアスリートの発掘(再掲)

子どもたちがスポーツを始めるきっかけづくりや、札幌から世界に羽ばたくトップアスリートを育成するために、様々な種目のオリンピックやパラリンピアンを始めとした元トップアスリートのスポーツ施設への配置などの検討を行います。

☆アスリートの活用(再掲)

アスリートの人材バンクなどと連携をとりながら、中学校の運動部活動や少年団にアスリートを派遣することでスポーツに対する意欲・関心の向上を図ります。

・さっぽろアスリートサポート事業(再掲)

札幌から世界に羽ばたくトップアスリートの育成を図るため、大会や強化合宿等の参加費用等の負担を軽減し、競技力向上に専念するための土台をつくります。

◎スポーツ団体と企業とのマッチング制度の検討(再掲)

支援を必要とする競技者や少年団等とスポーツへの支援に興味を持っている企業を結び付ける方法について検討を行います。

1 市民や関係団体との協働

スポーツの力で「さっぽろ」の未来をつくり、「スポーツ元気都市さっぽろ」の実現を目指していくためには、行政のみならず、市民やスポーツ関係団体、そして企業や大学など、様々な主体との連携が欠かせません。

これらの関係する様々な主体と、本計画における取組を協働して進めていくことで、着実にスポーツの振興を推進していきます。

■行政(札幌市)

札幌市は、市民やスポーツボランティア^{※9}、スポーツ推進委員^{※15}等の地域の人材・団体と積極的につながり、その力をいかすとともに、スポーツ関係団体やトップスポーツチーム、大学や企業と連携、協力しながら、競技の普及振興や地域・経済の活性化を進めていきます。

また、地域や学校等とスポーツ関係団体の間で相互に協力が必要な場合や、スポーツ関係団体だけでは解決できない課題解決のために、横断的にコーディネート機能を担います。

■市民

個人のスポーツへの関わり方は多種多様です。

日常の健康づくりから競技スポーツとしての活動まで、様々なレベルでスポーツを「する」ことや、感動や共感を求めてスポーツを「みる」こと、国際大会や地域スポーツイベントの運営支援等のスポーツボランティア^{※9}の活動を通じてスポーツを「ささえる」ことなど、様々な形でスポーツと関わることができます。

市民には、それぞれの興味・関心に応じて主体的にスポーツに関わり、札幌のスポーツを支えていく原動力としての役割が期待されます。

■体育振興会^{※16}及びスポーツ推進委員^{※15}

体育振興会^{※16}等の地域スポーツクラブ^{※22}やスポーツ推進委員^{※15}は、地域におけるスポーツ活動を活性化させていくための重要な担い手として位置づけられます。

体育振興会^{※16}やスポーツ推進委員^{※15}は、札幌市が実施する様々なスポーツ大会やイベントへの協力のみならず、身近な地域において、相互に連携を図りながら、自主的にスポーツイベントの企画・運営を行い、誰もがスポーツに親しめる機会を増やすなど、地域への積極的な働きかけを行うことによって、地域コミュニティの絆を強めていく役割があります。

※9 【スポーツボランティア】…スポーツイベントや大会の運営のほかにも、スポーツサークルやクラブチームの運営、指導者や審判、地域のスポーツ活動等のボランティアとして携わることを指す

※15 【スポーツ推進委員】…スポーツ基本法第32条に基づき、市町村教育委員会が委嘱する非常勤の職員(任期2年)。各地域のスポーツ関係団体と連携を図り、全市及び各区スポーツ事業等の企画・運営及び指導を行うなど、地域スポーツの振興に取組んでいる

■札幌市体育協会及び競技団体

札幌市体育協会及び競技団体は、スポーツの普及振興や競技力向上、そしてスポーツ大会の誘致・開催のために重要な役割を担っています。

スポーツ少年団やクラブチーム等の活動は、幼少期から社会人に至るまでの市民のスポーツ活動の重要な機会となることから、活動場所や内容等について情報発信を進めながら、より市民が参加しやすい環境を整えていくことはもとより、今後は、学校や地域との連携に加え、スポーツ施設を活用し、「競技力向上・指導者育成」や「ジュニアの育成・強化」などを担える人材を、より戦略的に育成していく役割も期待されます。

また、冬季オリンピック・パラリンピックの招致を見据えた今後のスポーツ振興を図る観点から、さっぽろ健康スポーツ財団との役割分担や、運営体制等について検討を行なっていくことが必要です。

■さっぽろ健康スポーツ財団

さっぽろ健康スポーツ財団は、札幌市におけるスポーツの普及振興及び健康づくり活動の支援を図るために、スポーツ施設などの管理運営のほか、市民に対して、講習会、教室及びスポーツイベントの開催など様々な事業を行うことで、札幌のみならず北海道におけるスポーツ振興と健康増進のための重要な役割を担っています。

今後は、これまでに蓄積されたノウハウや豊富な人材を最大限に活用していくとともに、その活動の場となるスポーツ施設を、これまでの維持管理に主眼を置いた運営から、より戦略的に活用する運営へと、将来を見据えて転換していくなど、引き続き札幌市のスポーツ施策の一翼を担う団体として、連携協力体制を強化していくことが必要です。

また、冬季オリンピック・パラリンピックの招致を見据えた今後のスポーツ振興を図る観点から、札幌市体育協会との役割分担や、運営体制等について検討を行なっていくことが必要です。

■札幌市障がい者スポーツ協会

札幌市障がい者スポーツ協会は、障がい者スポーツの普及振興を図るとともに、障がいのある方の社会参加を促進するなど、障がい者の福祉増進のための役割を担っています。

障がいのある方も共にスポーツを楽しむことができる環境づくりを進めるとともに、競技団体とも連携しながら、障がい者スポーツの選手育成や指導者養成、そして大会の運営等を通じた競技力向上に向けた取組を進めていくことが求められます。

また、障がい者スポーツに関する情報の提供を通じて、市民の障がい者スポーツに対する理解を促進していく役割も担っています。

※16 【体育振興会】…地域のスポーツ振興を図ることを目的として、学校を拠点として自主管理運営する、地域住民による組織

※22 【地域スポーツクラブ】…住民がその興味又は関心に応じて身近にスポーツに親しむことができるよう、住民が主体的に運営するスポーツ団体

■さっぽろグローバルスポーツコミッション

さっぽろグローバルスポーツコミッションは、札幌市のみならず北海道の豊富なスポーツ資源を最大限活用することにより、国際大会や事前合宿、スポーツ関連会議等スポーツイベントの誘致・開催支援活動を推進することを目的に平成28年(2016年)3月に設立された団体です。

今後札幌市がウインタースポーツをはじめとするスポーツツーリズム^{※8}を強く推進していく上でも、さっぽろグローバルスポーツコミッションにはその中心的な役割を担っていくことが期待されます。

■トップスポーツチーム

札幌市を本拠地として活躍するトップスポーツチームは、市民をはじめとする人々に、スポーツを「みる」機会を提供し、感動や共感を呼び起こします。それは、「する」スポーツ、「ささえる」スポーツを育て、人を動かす非常に大きなパワーを秘めています。

また、現在行っている種目に限定せず、スポーツを通じたまちづくりという目標を持ち、それぞれのチームが積極的に地域貢献活動等を行っています。

こうしたトップスポーツチームは、札幌市と連携し、チームのもつ知名度と競技力、指導力といったノウハウやネットワーク、選手の技能を活用しながら、地域のスポーツ振興と、それに伴う集客力の向上を図り、スポーツツーリズム^{※8}やシティプロモート^{※7}といった経済への波及効果を生み出していくことが期待されます。

■企業

スポーツを通じた観光の振興や産業の育成には、企業との連携が不可欠です。

企業は、イベント等においてスポーツを積極的に活用したり、札幌らしい新たなスポーツ関連商品の開発や、サービスの提供を行ったりすることで、経済の活性化を担います。

また、従業員がスポーツ活動を積極的に行うことができるような職場環境の工夫や整備を進めるとともに、保有するスポーツ施設を積極的に地域へ開放するなどして、地域に根差した企業活動を行っていくことが期待されます。

■大学

大学におけるスポーツ活動には、大学の教育課程としての体育授業、学問体系としてのスポーツ科学及び課外活動等の側面があり、全ての学生がスポーツの価値を理解することは、スポーツを通じた社会発展につながるものといえます。

また、大学のスポーツ資源(学生、指導者、研究者、施設等)の活用は、市民のスポーツ振興や地域の活性化に資するとともに、大学そのものの発展にもつながることから、今後はより一層積極的な連携が必要です。

その他、スポーツを推進するに当たっては、市の施設を運営する株式会社札幌ドームや株式会社札幌振興公社などといった指定管理者^{※19}や、スポーツ施設を運営する民間事業者などとも、お互いの特性をいかに相互に協力しながら進めていくことが必要です。

※7 【シティプロモート】…まちの魅力を再発見し、創造することで新しい都市の輝きをつくり出すとともに、市民が誇りをもってその魅力を内外に発信することで、世界の人々と多様な関係をつくり出すための一連の活動

※8 【スポーツツーリズム】…スポーツを「観る」「する」ための旅行そのものや周辺地域観光に加え、スポーツを「支える」人々との交流、あるいは生涯スポーツの観点からビジネスなどの多目的での旅行者に対し、旅行先の地域でも主体的にスポーツに親しむことのできる環境の整備、そしてMICE推進の要となる国際競技大会の招致・開催、合宿の招致も含まれた、複合的でこれまでにない「豊かな旅行スタイルの創造」を目指すものである



※19 **【指定管理者】**…公の施設の設置目的を効果的に達成するため、法令等に基づき、その施設の管理運営を行うよう、地方公共団体によって指定された、法人その他の団体

2 将来を見据えた施設の在り方や配置の検討

札幌市はこれまで、1区1体育館1公的温水プールを基本方針としてスポーツ施設の整備を行うと同時に、全国規模の大会や国際大会の誘致や継続的な開催に向けて、各スポーツ施設の整備や維持管理に努めてきました。また、学校体育施設の有効活用として、学校開放事業の実施・拡大を進めてきました。

特に、オリンピック関連施設については、札幌の貴重な財産であると同時に、ウインタースポーツの振興にとっても、重要な役割を果たしています。

一方、昭和47年(1972年)の冬季オリンピック開催前後に建てられたスポーツ施設は、建設から40年以上が経過しており、今後は、老朽化に伴う修繕等に要する経費が急増していくとともに、更新時期が一斉に到来することから、財政運営に大きな影響を及ぼすことが見込まれています。

今後の人口減少、本格的な超高齢社会^{*12}の到来や、多様化するニーズに対応しながら、将来にわたって市民がスポーツに親しめる環境を維持していくためには、今後見込まれる市税収入等の減少や、社会保障関係費用の増加も考慮しながら、中長期的な視点をもって、計画的な施設の更新や長寿命化の実施等を行っていく必要があります。

このようなことから、これまでの画一的な基準による施設整備ではなく、今後は、時代の変化に適応しながら、地域ニーズを考慮したバランスの良いスポーツ施設の在り方を検討していく必要があります。

国においては、公共施設等の老朽化対策等を推進するため、平成25年11月に「インフラ長寿命化基本計画」を策定するとともに、平成29年3月に策定した「第2期スポーツ基本計画」でも、既存施設の有効活用やストックの適正化、安全で多様なスポーツ環境の持続的な確保を目指すことが示されています。

札幌市においても、「札幌市まちづくり戦略ビジョン」や、これに基づく「札幌市市有建築物の配置基本方針」で示された「施設維持から機能重視へ」という考え方、そして、冬季オリンピック・パラリンピック招致に向けた計画とも整合を図りながら、将来を見据えたスポーツ施設の在り方や配置、民間施設や他の公共施設の活用などについて、スポーツ施設の配置・活用計画を策定します。

なお、計画策定に当たっては、アンケートの実施やワークショップの開催により市民やスポーツ関係団体の意見も取り入れるとともに、札幌市スポーツ推進審議会のほか、スポーツ施設に関する有識者によって構成される検討委員会の意見を十分に踏まえることとします。

^{*12} 【超高齢社会】…総人口に占める65歳以上の人口割合が21%を超える社会のこと。なお、7%以上14%未満を「高齢化社会」14%以上21%未満を「高齢社会」と呼ぶ

3 計画の進行管理

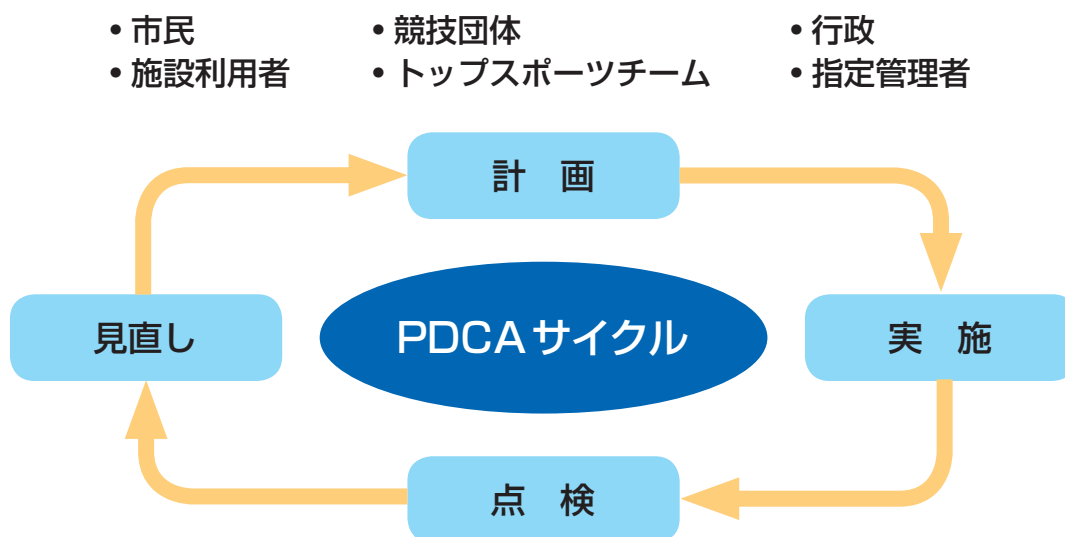
目標や方針に掲げた項目を着実に押し進めていくために、施策や事業の実施に当たっては、具体的な目標を立て、達成までの進捗状況を適切に管理していくことが必要です。

また、スポーツを取り巻く社会の変化に柔軟に対応し、その時々ニーズに応じていく必要があることから、今回、計画の見直しを行いました。

引き続き、札幌市自治基本条例を踏まえ、市民との協働により、計画を推進していきます。

計画の進捗状況は、毎年度、札幌市スポーツ推進審議会で報告を行うとともに、日頃から札幌市の取組や課題を積極的に発信していきます。

また、今回の計画の見直しを機に、この計画や札幌市のスポーツ施策をより市民に分かりやすい形で浸透を促す方法についても検討していきます。



1 計画策定までの経過

平成26年3月	札幌市スポーツ推進計画策定
平成29年3月	第2期スポーツ基本計画策定
平成29年8月	平成29年度第2回市民意識調査
平成30年1月	平成29年度第4回市民意識調査
平成30年2月	スポーツ関係団体ヒアリング
平成30年6月	教育委員会会議審議
平成30年7月	第27期第1回札幌市スポーツ推進審議会
	市民ワークショップ実施
平成30年9月	第27期第2回札幌市スポーツ推進審議会
平成30年10月	第27期第3回札幌市スポーツ推進審議会
平成31年3月	教育委員会会議審議
平成31年3月	パブリックコメント実施
平成31年 月	第27期第4回札幌市スポーツ推進審議会
平成31年 月	教育委員会会議決議・計画策定
平成31年 月	札幌市スポーツ推進計画(改定版)の公表

2 平成29年度 指標達成度調査結果概要

■設計

調査期間 平成30年(2018年)2月1日(木)～2月23日(金)
 調査方法 郵送法
 調査対象者 札幌市全域の18歳以上の男女4,000人
 抽出方法 住民基本台帳からの等間隔無作為抽出法

■回収結果

発送数 4,000通
 回収数 1,566通
 回収率 39.2%

■回答者の属性

		回答者数	男性	女性	無回答
全 体		1,566	38.1	60.8	1.1
性 別	男性	597	100.0	0.0	0.0
	女性	952	0.0	100.0	0.0
	無回答	17	0.0	0.0	100.0
年代別	18～19歳	23	39.1	60.9	0.0
	20～29歳	119	34.5	65.5	0.0
	30～39歳	194	30.4	69.6	0.0
	40～49歳	267	37.1	62.5	0.4
	50～59歳	247	34.4	65.6	0.0
	60～64歳	160	45.0	55.0	0.0
	65～69歳	210	41.0	58.1	1.0
	70歳以上	331	43.8	54.7	1.5
居住区別	無回答	15	6.7	33.3	60.0
	中央区	208	38.5	60.6	1.0
	北区	221	37.1	62.4	0.5
	東区	189	38.1	61.4	0.5
	白石区	147	40.8	58.5	0.7
	厚別区	115	40.0	60.0	0.0
	豊平区	169	38.5	61.5	0.0
	清田区	87	35.6	64.4	0.0
	南区	126	38.1	60.3	1.6
	西区	176	37.5	62.5	0.0
	手稲区	116	38.8	60.3	0.9
無回答	12	16.7	8.3	75.0	

■アンケート結果(スポーツ関連部分を抜粋)

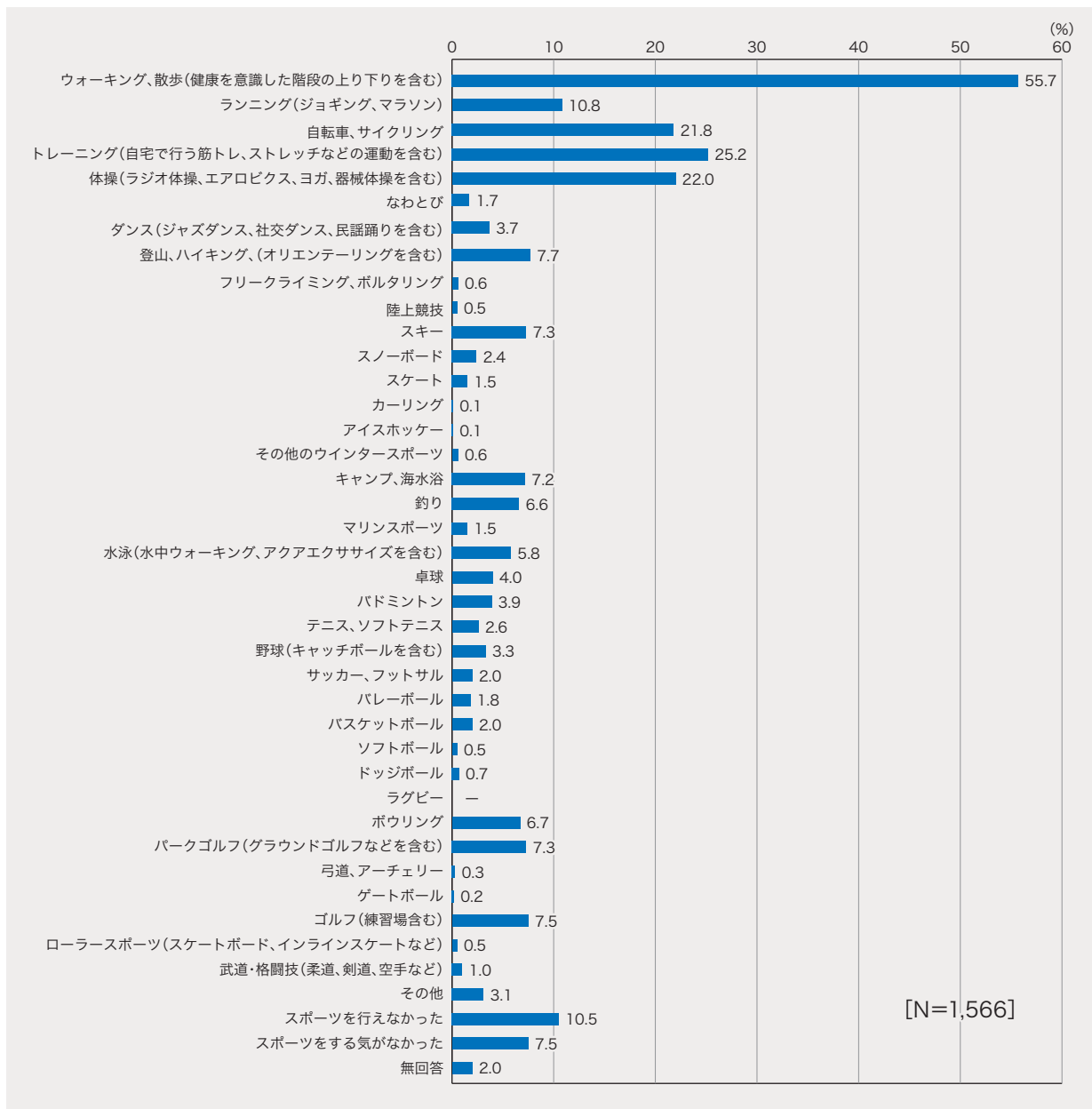
【問】あなたは、この1年間に運動・スポーツを行いましたか。行った場合は、あてはまるものすべてに○をつけてください。

なお、運動・スポーツには、健康づくりを意識して日常生活で行う軽い運動(徒歩通勤、自転車通勤、階段の積極的な利用など)も含まれます。運動・スポーツを行わなかった場合は、「スポーツを行えなかった」または「スポーツをする気がなかった」のいずれかに○をつけてください。

※ 障がいに応じた用具やルールの修正などがある競技はもとの競技に含みます。

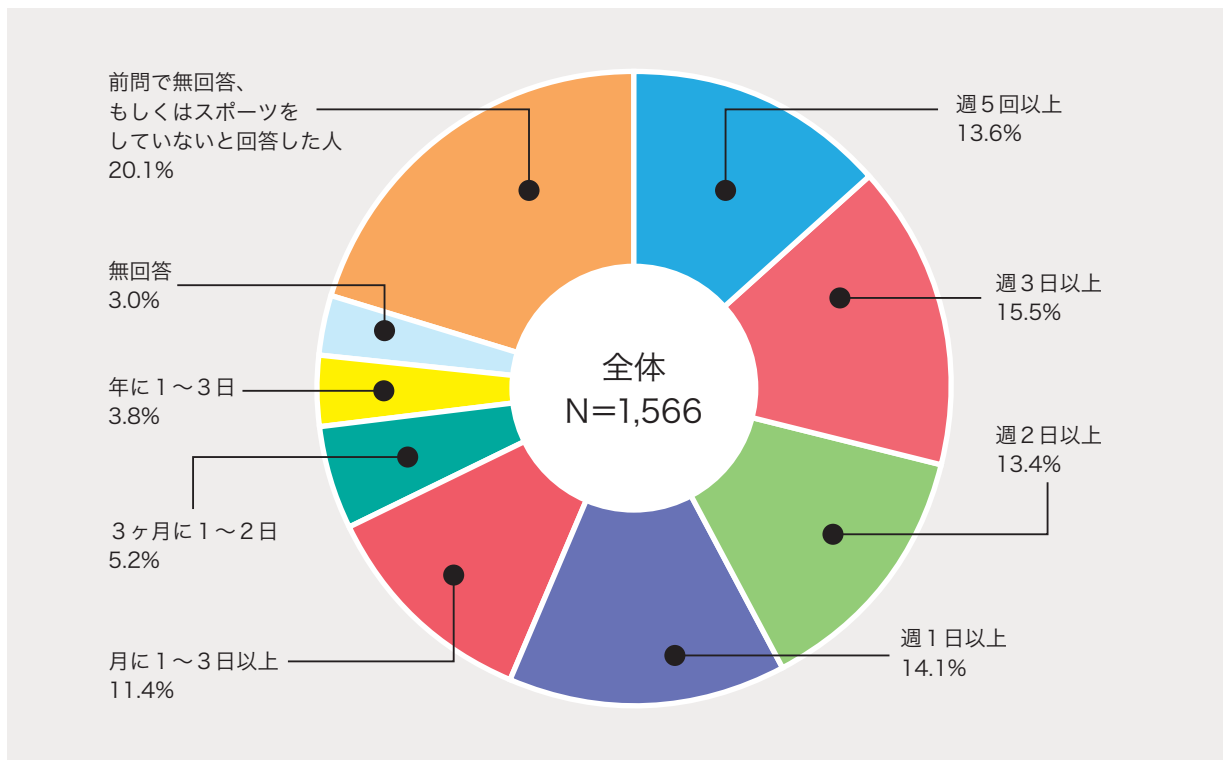
例：車いすマラソン → 2. ランニング(ジョギング、マラソン)

ブラインドサッカー → 25. サッカー、フットサル



※前問で、いずれかのスポーツに○をつけた方にお聞きします。

【問】あなたが、前問 で答えたスポーツを行った日数を全部合わせると、1年間で何日くらいになりますか。あてはまるもの一つに○をつけてください。



※スポーツ実施率の算出について
スポーツ実施率は、成人のうち、「週1日以上(年51～100日)」、「週2日以上(年101日～150日)」、「週3日以上(年251日以上)」、「週5日以上(年251日以上)」と回答した人数の割合です。
上記グラフは18歳、19歳を含んでいることから56.6%という数字になりますが、成人で算出すると、56.4%になります。

3 平成29年度 第2回市民意識調査結果概要

■設計

調査期間 平成29年(2017年)8月18日(金)～9月1日(金)
 調査方法 郵送法
 調査対象者 札幌市全域の18歳以上の男女5,000人
 抽出方法 住民基本台帳からの等間隔無作為抽出法

■回収結果

発送数 5,000通
 回収数 2,596通
 回収率 51.9%

■回答者の属性

		実数	比率(%)
対象者全体		2,596	51.9
性別	男性	1,020	39.3
	女性	1,550	59.7
	無回答	26	1.0
年齢	29歳以下	229	8.8
	30～39歳	323	12.4
	40～49歳	413	15.9
	50～59歳	451	17.4
	60～69歳	579	22.3
	70歳以上	581	22.4
	無回答	20	0.8
	居住区別	中央区	295
北区		388	14.9
東区		310	11.9
白石区		275	10.6
厚別区		183	7.0
豊平区		296	11.4
清田区		147	5.7
南区		193	7.4
西区		288	11.1
手稲区		204	7.9
無回答		17	0.7

		実数	比率(%)
対象者全体		2,596	51.9
職業	会社役員	78	3.0
	会社員	645	24.8
	公務員	109	4.2
	自営業	107	4.1
	パート・アルバイト	395	15.2
	主婦・主夫	549	21.1
	学生	76	2.9
	無職	518	20.0
	その他	73	2.8
	無回答	46	1.8
	世帯構成	単身世帯	421
一世代世帯		808	31.1
二世帯世帯		1,065	41.0
三世帯世帯		120	4.6
その他		154	5.9
無回答		28	1.1
同居家族	配偶者	1,599	61.6
	乳幼児	141	5.4
	就学前児童	142	5.5
	小学生	229	8.8
	中学生	152	5.9
	高校生	137	5.3
	大学(院)・専門学校生	148	5.7
	65才以上の高齢者	401	15.4
	上記以外	562	21.6
	いない	385	14.8
無回答	106	4.1	

■テーマごとの設問と主な結果(スポーツ関連部分を抜粋)

※構成比(%)は、小数点以下第2位を四捨五入しています。

テーマ3 スポーツについて

市民の皆さまのスポーツに関する活動の現状をお聞きし、今後のスポーツ環境整備のための参考とさせていただきます。

問13 1年以内にスポーツを行った割合

「スポーツを行った」	39.4%
「スポーツを行わなかった」	58.2%

問14 今後行いたいウインタースポーツ(複数回答)

「スキー」	24.7%
「スケート」	12.9%
「スノーボード」	11.6%
「カーリング」	10.1%
※「ウインタースポーツを行いたいと思わない」	41.6%

《問14でいずれかのウインタースポーツに○をつけた方を対象》

問14-1 ウインタースポーツを行う上での妨げ(複数回答)

「仕事や家事が忙しい」	38.0%
「用具購入にお金がかかる」	36.5%
「施設利用料が高い」	25.4%
「病気・体力・年齢」	23.3%
「施設へのアクセスが悪い」	21.0%

問15 今後行いたいウインタースポーツ以外のスポーツ(複数回答)

「ウォーキング、散歩」	49.7%
「筋力トレーニング」	22.7%
「水泳、水中ウォーキング」	19.3%
「エアロビクス、ヨガ」	17.1%
「キャンプ、海水浴」	14.1%
※「スポーツを行いたいと思わない」	7.6%

《問15でいずれかのスポーツに○をつけた方を対象》

問15-1 ウィンタースポーツ以外のスポーツを行う上での妨げ(複数回答)

「仕事や家事が忙しい」	35.1%
「病気・体力・年齢」	28.4%
「施設の利用日や時間が限られている」	21.3%
「一緒に活動する仲間が少ない」	17.2%
「施設利用料が高い」	17.2%

問16 1年以内に直接観戦したスポーツ(複数回答)

「プロ野球」	33.0%
「プロサッカー」	7.5%
「マラソン、駅伝」	6.2%
「アマチュア野球(児童・学生を含む)」	4.8%
「ゴルフ」	4.0%
※「観戦しなかった」	48.9%

《問16でいずれかのスポーツに○をつけた方を対象》

問16-1 直接スポーツ観戦をしたきっかけ(複数回答)

「チームや選手のファン」	37.4%
「チケットを入手した」	35.1%
「家族や知人からの誘い」	31.3%
「自分がそのスポーツをしている(していた)」	19.8%
「観戦する施設が近い」	14.6%

《問16で「観戦しなかった」と答えた方を対象》

問16-2 直接スポーツ観戦をしたいと思うきっかけ(複数回答)

「観戦する施設が近い」	35.7%
「手軽にチケットを入手できる」	32.6%
「家族や知人からの誘い」	32.5%
「家族や知人が出場する」	26.8%
「国際大会が札幌で開催される」	9.7%

問17 「スポーツボランティア^{※9}」参加経験の有無

「参加したことがある」	8.1%
「参加したことがない」	89.0%

※9 【スポーツボランティア】…スポーツイベントや大会の運営のほかにも、スポーツサークルやクラブチームの運営、指導者や審判、地域のスポーツ活動等のボランティアとして携わることを指す

問18 「スポーツボランティア^{*9}」への参加意志の有無

「したいと思う」	18.8%
「したいと思わない」	71.3%

《問18で「したいと思う」と答えた方を対象》

問18-1 「スポーツボランティア^{*9}」への参加を決める際に重視するもの(複数回答)

「時間や期間が適度であること」	73.8%
「身近な場所で参加できること」	66.1%
「イベント・大会に魅力があること」	46.6%
「ボランティアに関する情報が入手しやすいこと」	25.8%
「選手や他のボランティアとの交流ができること」	22.7%

問19 障がい者スポーツへの関わりの有無(複数回答)

「新聞・ニュースなどで試合結果を見たり聞いたりしたことがある」	20.1%
「テレビで試合中継を観戦したことがある」	18.6%
「直接観戦したことがある」	2.8%
「大会のスタッフとして関わったことがある」	2.2%
「寄付などの間接的な支援活動で関わったことがある」	2.0%
※「関わったことがない」	67.2%

問20 障がい者スポーツ振興のために必要と感ずるもの

「障がい者スポーツについての情報発信」	25.6%
「障がい者スポーツを観戦する機会」	12.6%
「優先的に障がい者スポーツができる場」	12.1%
「障がい者スポーツを体験する機会」	7.9%
「障がい者スポーツについての相談体制」	1.7%
※「特にない」	6.9%

4 平成29年度 第4回市民意識調査結果概要

■設計

調査期間 平成30年(2018年)1月12日(金)～1月26日(金)
 調査方法 郵送法
 調査対象者 札幌市全域の18歳以上の男女5,000人
 抽出方法 住民基本台帳からの等間隔無作為抽出法

■回収結果

発送数 5,000通
 回収数 2,602通
 回収率 52.0%

■回答者の属性

		実数	比率(%)
対象者全体		2,602	52.0
性別	男性	994	38.2
	女性	1,587	61.0
	無回答	21	0.8
年齢	29歳以下	214	8.2
	30～39歳	330	12.7
	40～49歳	468	18.0
	50～59歳	452	17.4
	60～69歳	560	21.5
	70歳以上	558	21.4
	無回答	20	0.8
	居住区別	中央区	301
北区		364	14.0
東区		330	12.7
白石区		245	9.4
厚別区		178	6.8
豊平区		295	11.3
清田区		156	6.0
南区		212	8.1
西区		294	11.3
手稲区		209	8.0
無回答		18	0.7

		実数	比率(%)
対象者全体		2,602	52.0
職業	会社役員	81	3.1
	会社員	651	25.0
	公務員	103	4.0
	自営業	99	3.8
	パート・アルバイト	407	15.6
	主婦・主夫	564	21.7
	学生	75	2.9
	無職	506	19.4
	その他	83	3.2
	無回答	33	1.3
	世帯構成	単身世帯	435
一世代世帯		797	30.6
二世帯世帯		1,070	41.1
三世帯世帯		110	4.2
その他		148	5.7
無回答		42	1.6
同居家族	配偶者	1,601	61.5
	乳幼児	140	5.4
	就学前児童	165	6.3
	小学生	253	9.7
	中学生	139	5.3
	高校生	147	5.6
	大学(院)・専門学校生	128	4.9
	65才以上の高齢者	390	15.0
	上記以外	559	21.5
	いない	398	15.3
無回答	81	3.1	

■テーマごとの設問と主な結果(スポーツ関連部分を抜粋)

※構成比(%)は、小数点以下第2位を四捨五入しています。

テーマ3 スポーツについて

札幌市では、今後の体育館、プール、ウィンタースポーツ施設のあり方を検討しています。そこで、皆さまのスポーツ施設の利用状況などについてお聞きし、今後のスポーツ施設の整備の参考とさせていただきます。

問10 過去1年間にスポーツを行ったか

「行った」	58.0%
「行わなかった」	40.2%

問11 スポーツを行う場所(複数回答)

「公園、運動広場、緑地」	35.4%
「公共スポーツ施設」	27.1%
「自宅」	26.3%
「民間スポーツ施設」	24.3%
「海、山、川などの自然」	22.8%

問12 過去1年間の公共体育館利用の有無(複数回答)

「中央体育館」	2.7%
「北区体育館」	2.3%
「東区体育館」	2.5%
「白石区体育館」	1.9%
「厚別区体育館」	1.5%
「豊平区体育館」	2.0%
「清田区体育館」	2.1%
「南区体育館」	1.5%
「西区体育館」	2.9%
「手稲区体育館」	1.9%
「中島体育センター」	1.4%
「宮の沢屋内競技場」	0.6%
「美香保体育館(夏季のみ)」	0.7%
「他の公共体育館」	4.6%
「利用していない」	74.0%

問13 公共体育館配置場所の満足度

「満足している」	6.9%
「どちらかといえば満足している」	16.9%
「どちらかといえば満足していない」	11.3%
「満足していない」	9.6%
「わからない」	53.1%

問14 公共体育館配置数の満足度

「満足している」	7.3%
「どちらかといえば満足している」	16.8%
「どちらかといえば満足していない」	11.2%
「満足していない」	9.6%
「わからない」	52.9%

問15 公共体育館に求めるもの(3つまで回答)

「地下鉄などの交通アクセスの利便性」	37.4%
「身近にあること」	36.5%
「利用しやすい料金設定」	35.4%
「駐車場の広さ」	28.0%
「利用しやすい開館時間」	18.8%

問16 過去1年間の公的温水プール利用の有無(複数回答)

「厚別温水プール」	1.2%
「豊平公園温水プール」	0.9%
「平岸プール」	2.0%
「白石温水プール」	0.9%
「手稲曙温水プール」	1.3%
「東温水プール」	1.6%
「清田温水プール」	0.8%
「西温水プール」	1.6%
「サンシャインスポーツクラブ(中央区公的温水プール)」	0.6%
「札幌サンプラザ(北区公的温水プール)」	0.8%
「北海道青少年会館コンパス(南区公的温水プール)」	0.6%
「利用していない」	84.7%

問17 公的温水プール配置場所の満足度

「満足している」	6.6%
「どちらかといえば満足している」	13.0%
「どちらかといえば満足していない」	8.5%
「満足していない」	8.1%
「わからない」	60.3%

問18 公的温水プール配置数の満足度

「満足している」	5.7%
「どちらかといえば満足している」	13.2%
「どちらかといえば満足していない」	8.2%
「満足していない」	8.5%
「わからない」	61.3%

問19 公的温水プールに求める機能(3つまで回答)

「地下鉄などの交通アクセスの利便性」	30.9%
「身近にあること」	30.2%
「利用しやすい料金設定」	29.1%
「使いやすい更衣室・シャワー設備」	23.7%
「駐車場の広さ」	22.5%

問20 過去1年間にウインタースポーツを行ったか

「行った」	15.7%
「行わなかった」	81.9%

調査結果の詳細は札幌市HPに掲載しています。

[http://www.city.sapporo.jp/somu/shiminnokoe/citi_enq/]

5 札幌市スポーツ推進計画の中間見直しに係るアンケート調査

■調査期間

平成30(2018年)年2月8日(木)～23日(金)

■調査対象

- (1) 札幌市体育協会加盟競技団体 53団体
- (2) 障がい者スポーツ団体 10団体
- (3) 公共スポーツ施設指定管理者^{*19}・札幌市障がい者スポーツ協会 4団体

■調査概要

本アンケートは、上記の調査対象団体へ、これまでの団体の状況と今後の取組や考え方などについて、スポーツ推進計画の見直しの参考とすることを目的に実施しました。

また、公共スポーツ施設指定管理者^{*19}並びに障がい者スポーツ協会へのアンケートについては、平成29年3月にスポーツ庁より公表された「第2期スポーツ基本計画」に対して、組織の取組として重点的に実施していること、検討していることについても回答を求めました。

■回答状況

- (1) 回答数 49団体
 - 内訳 1 札幌市体育協会加盟競技団体……………41団体
 - 2 障がい者スポーツ団体…………… 4団体
 - 3 公共スポーツ施設指定管理者^{*19}・札幌市障がい者スポーツ協会…………… 4団体
- (2) 回答率 73.1%
 - 内訳 1 札幌市体育協会加盟競技団体…………… 77.4%
 - 2 障がい者スポーツ団体…………… 40.0%
 - 3 公共スポーツ施設指定管理者^{*19}・札幌市障がい者スポーツ協会…………… 100%

^{*19} 【指定管理者】…公の施設の設置目的を効果的に達成するため、法令等に基づき、その施設の管理運営を行うよう、地方公共団体によって指定された、法人その他の団体

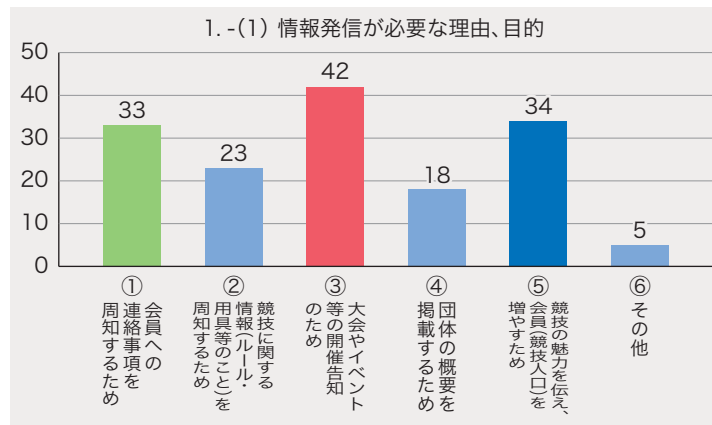
■アンケート回答集計

1. 情報発信に関すること ※札幌市体育協会加盟競技団体・障がい者スポーツ団体向け設問

(1) 情報発信が必要な理由、目的 ※複数回答

- ① 会員への連絡事項を周知するため
- ② 競技に関する情報(ルール・用具等のこと)を周知するため
- ③ 大会やイベント等の開催告知のため
- ④ 団体の概要を掲載するため
- ⑤ 競技の魅力伝え、会員(競技人口)を増やすため
- ⑥ その他

【回答:45団体/全63団体 回答率:71.4% 回答数:155件】

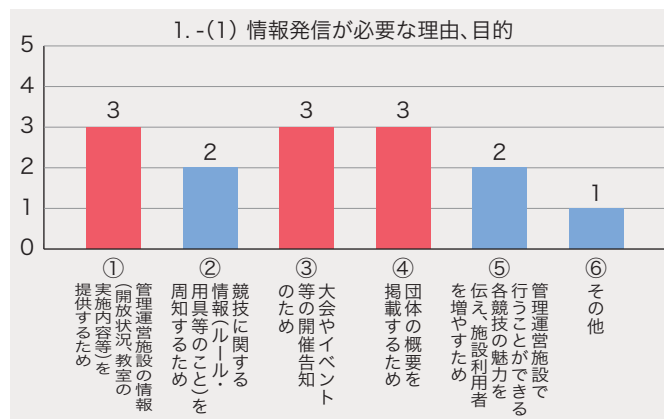


1. 情報発信に関すること ※札幌市スポーツ施設指定管理者^{*19}向け設問

(1) 情報発信が必要な理由、目的 ※複数回答

- ① 管理運営施設の情報(開放状況、教室の実施内容等)を提供するため
- ② 競技に関する情報(ルール・用具等のこと)を周知するため
- ③ 大会やイベント等の開催告知のため
- ④ 団体の概要を掲載するため
- ⑤ 管理運営施設で行うことができる各競技の魅力伝え、施設利用者を増やすため
- ⑥ その他

【指定管理者^{*19}=回答:3団体/全3団体 回答率:100% 回答数:14件】

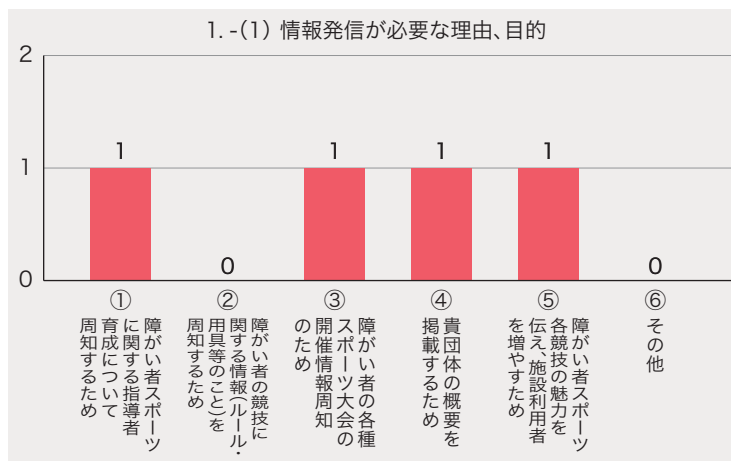


1. 情報発信に関すること ※札幌市障がい者スポーツ協会向け設問

(1) 情報発信が必要な理由、目的 ※複数回答

- ① 障がい者スポーツに関する指導者育成について周知するため
- ② 障がい者の競技に関する情報(ルール・用具等のこと)を周知するため
- ③ 障がい者の各種スポーツ大会の開催情報周知のため
- ④ 貴団体の概要を掲載するため
- ⑤ 障がい者スポーツ各競技の魅力伝え、競技者・施設利用者を増やすため
- ⑥ その他

【障がい者スポーツ=回答:1団体/全1団体 回答率:100% 回答数:4件】

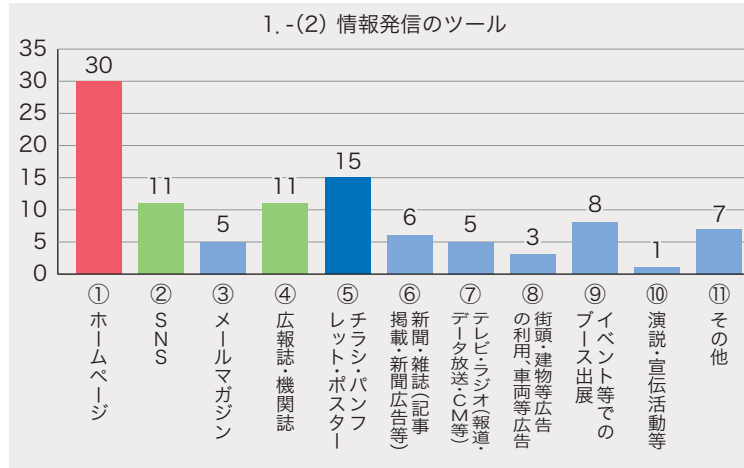


1. 情報発信に関すること ※札幌市体育協会加盟競技団体他 共通設問

(2) 情報発信の方法として利用しているツール ※複数回答

- ① ホームページ ② SNS ③ メールマガジン ④ 広報誌・機関誌
- ⑤ チラシ・パンフレット・ポスター
- ⑥ 新聞・雑誌(記事掲載・新聞広告等【電子版を含む】)
- ⑦ テレビ・ラジオ(報道・データ放送・CM等)
- ⑧ 街頭・建物等広告(掲示板)の利用、車両等広告等
- ⑨ イベント等でのブース出展 ⑩ 演説・宣伝活動等 ⑪ その他

【回答:48団体/全67団体 回答率:71.6% 回答数:103件 ※未回答1件を含む】

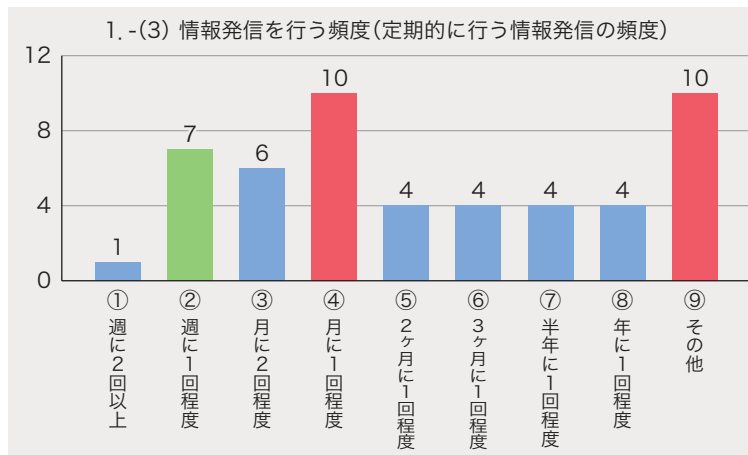


1. 情報発信に関すること ※札幌市体育協会加盟競技団体他 共通設問

(3) 情報発信を行う頻度(定期的に行う情報発信の頻度) ※単回答

- ① 週に2回以上 ② 週に1回程度 ③ 月に2回程度
- ④ 月に1回程度 ⑤ 2ヶ月に1回程度 ⑥ 3ヶ月に1回程度
- ⑦ 半年に1回程度 ⑧ 年に1回程度 ⑨ その他

【回答:46団体/全67団体 回答率:68.7% 回答数:53件 ※未回答3件を含む】



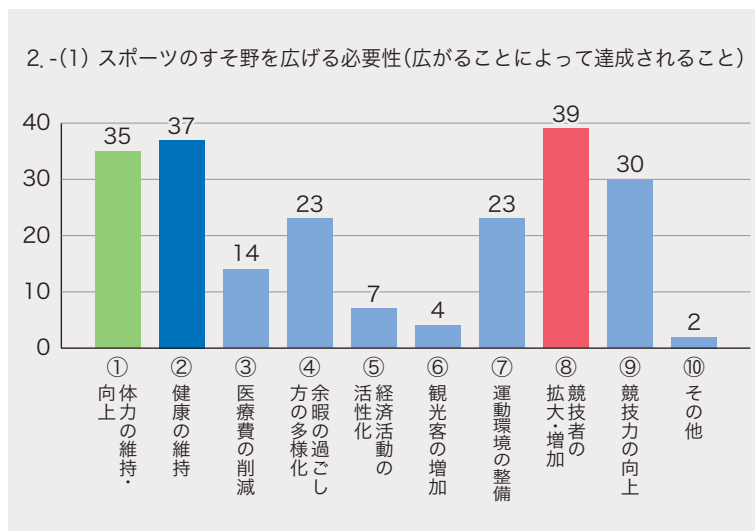
2. 「スポーツ(競技・健康維持運動)のすそ野を広げる」必要性と取り組みに関すること

※札幌市体育協会加盟競技団体他 共通設問

(1) スポーツのすそ野を広げる必要性(すそ野が広がることによって達成されること) ※複数回答

- ① 体力の維持・向上
- ② 健康の維持
- ③ 医療費の削減
- ④ 余暇の過ごし方の多様化
- ⑤ 経済活動の活性化
- ⑥ 観光客の増加
- ⑦ 運動環境の整備
- ⑧ 競技者の拡大・増加
- ⑨ 競技力の向上
- ⑩ その他

【回答:49団体/全67団体 回答率:73.1% 回答数:214件】



2. 「スポーツ(競技・健康維持運動)のすそ野を広げる」必要性和取り組みに関すること

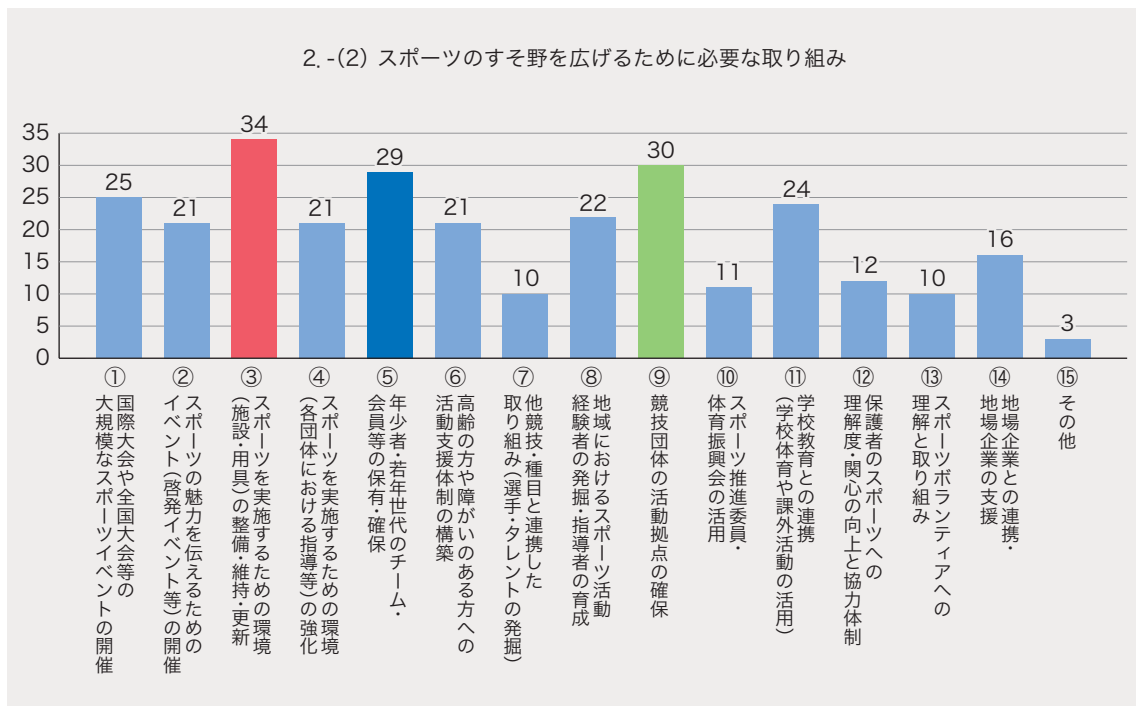
※札幌市体育協会加盟競技団体他 共通設問

(2) スポーツのすそ野を広げるために必要な取り組みとして考えられることは何か

※複数回答

- ① 国際大会や全国大会等の大規模なスポーツイベントの開催
- ② スポーツの魅力を伝えるためのイベント(啓発イベント等)の開催
- ③ **スポーツを実施するための環境(施設・用具)の整備・維持・更新**
- ④ スポーツを実施するための環境(各団体における指導等)の強化
- ⑤ **年少者・若年世代のチーム・会員等の保有・確保**
- ⑥ 高齢の方や障がいのある方への活動支援体制の構築
- ⑦ 他競技・種目と連携した取り組み(選手・タレントの発掘)
- ⑧ 地域におけるスポーツ活動経験者の発掘・指導者の育成
- ⑨ **競技団体の活動拠点の確保**
- ⑩ スポーツ推進委員^{※15}・体育振興会^{※16}の活用
- ⑪ 学校教育との連携(学校体育や課外活動の活用)
- ⑫ 保護者のスポーツへの理解度・関心の向上と協力体制
- ⑬ スポーツボランティア^{※9}への理解と取り組み
- ⑭ 地場企業との連携・地場企業の支援
- ⑮ その他

【回答:48団体/全67団体 回答率:71.6% 回答数:290件 ※未回答1件を含む】



※9 【スポーツボランティア】…スポーツイベントや大会の運営のほかにも、スポーツサークルやクラブチームの運営、指導者や審判、地域のスポーツ活動等のボランティアとして携わることを目指す

※15 【スポーツ推進委員】…スポーツ基本法第32条に基づき、市町村教育委員会が委嘱する非常勤の職員(任期2年)。各地域のスポーツ関係団体と連携を図り、全市及び各区スポーツ事業等の企画・運営及び指導を行うなど、地域スポーツの振興に取り組んでいる

※16 【体育振興会】…地域のスポーツ振興を図ることを目的として、学校を拠点として自主管理運営する、地域住民による組織

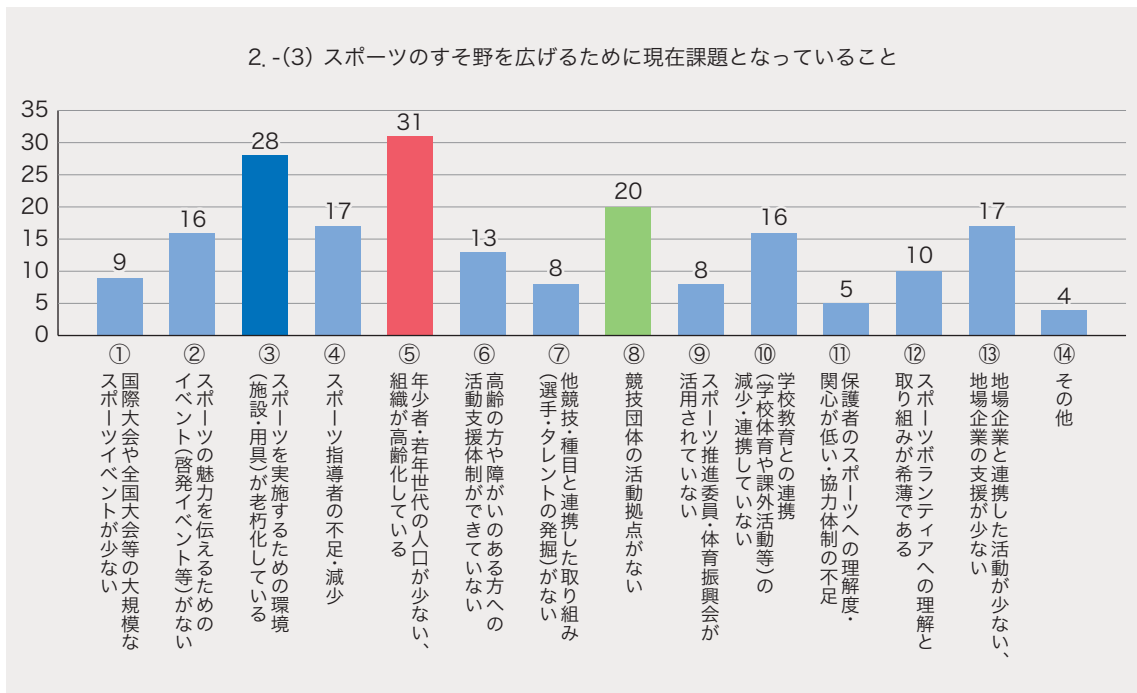
2. 「スポーツ(競技・健康維持運動)のすそ野を広げる」必要性和取り組みに関すること

※札幌市体育協会加盟競技団体他 共通設問

(3) スポーツのすそ野を広げるために現在課題となっていることは何か ※複数回答

- ① 国際大会や全国大会等の大規模なスポーツイベントが少ない
- ② スポーツの魅力を伝えるためのイベント(啓発イベント等)がない
- ③ **スポーツを実施するための環境(施設・用具)が老朽化している**
- ④ スポーツ指導者の不足・減少
- ⑤ **年少者・若年世代の人口が少ない、組織が高齢化している**
- ⑥ 高齢の方や障がいのある方への活動支援体制ができていない
- ⑦ 他競技・種目と連携した取り組み(選手・タレントの発掘)がない
- ⑧ **競技団体の活動拠点が無い**
- ⑨ スポーツ推進委員^{*15}や体育振興会^{*16}が活用されていない
- ⑩ 学校教育(学校体育や課外活動等)の減少・連携していない
- ⑪ 保護者のスポーツへの理解度・関心が低い・協力体制の不足
- ⑫ スポーツボランティア^{*9}への取り組みが希薄である
- ⑬ 地場企業と連携した活動が少ない、地場企業の支援が少ない
- ⑭ その他

【回答:49団体/全67団体 回答率:73.1% 回答数:202件】



※9 【スポーツボランティア】…スポーツイベントや大会の運営のほかにも、スポーツサークルやクラブチームの運営、指導者や審判、地域のスポーツ活動等のボランティアとして携わること指す

※15 【スポーツ推進委員】…スポーツ基本法第32条に基づき、市町村教育委員会が委嘱する非常勤の職員(任期2年)。各地域のスポーツ関係団体と連携を図り、全市及び各区スポーツ事業等の企画・運営及び指導を行うなど、地域スポーツの振興に取組んでいる

※16 【体育振興会】…地域のスポーツ振興を図ることを目的として、学校を拠点として自主管理運営する、地域住民による組織

3. 子ども・高齢の方・障がいのある方への取り組みに関すること、女性の活躍・ビジネスパーソン^{※13} (働く世代)に対する取り組みに関すること ※各項目 記述回答

(1) 子ども達がスポーツに親しめる(楽しめる)環境をつくるために行っている取り組みについて、具体的事例があればご記入ください。

【回答概要】

- 札幌協加盟競技団体・障がい者スポーツ団体のうち、27団体から回答があった。
- 回答内容の多くは「体験会・教室の実施」で、一部親子を対象とした事業を実施している団体もあった。また、「市民体育大会」を活用しているという回答も多かった。体験会については、それぞれの競技団体が単独で実施していることが多く、普及活動や啓発活動が、他の競技団体と協働・連携して実施されるケースは少ない。

(2) 高齢の方がスポーツに親しむことができる(楽しむことができる)ための取り組みについて、具体的事例があればご記入ください。

【回答概要】

- 札幌協加盟競技団体・障がい者スポーツ団体のうち、21団体から回答があった。
- 「マスターズ大会の開催」が多数を占め、「愛好家」や「経験者」を対象とした取り組みが中心となっている。

(3) 女性を対象とした取り組みについて、具体的な事例があればご記入ください。

【回答概要】

- 札幌協加盟競技団体の15団体から回答があったが、障がい者スポーツ団体からの回答はなかった。
- 大会の開催に関する回答が半数以上。なお、「競技について男女間のレベル・体力等に格差がない」ことから、特別な取り組みを実施していない団体もあった。

(4) 障がいのある方がスポーツに親しむことができる(楽しむことができる)取り組みについて、具体的事例があればご記入ください。

【回答概要】

- 札幌協加盟競技団体の10団体より回答があり、障がいを持つ方の大会の支援(運営協力等)という回答が多かった。その他は、競技指導が中心。

(5) ビジネスパーソン^{※13}(働く世代)がスポーツに関わることができるような取り組みについて、具体的事例があればご記入ください。

【回答概要】

- 札幌協加盟競技団体の11団体から回答があり、多くは大会の開催という内容。
- 障がいを持つ方、高齢の方への取り組み同様、既に競技をしている愛好家を対象とした取り組みが多く、新たにスポーツをしようとする人へのアプローチが少ない。

※13 【ビジネスパーソン】…20歳代から50歳代にかけての働く世代のこと

4. 他団体との連携・協働、地域との連携・交流等に関すること ※各項目 記述回答

(1) 気軽にスポーツを楽しめるような取り組みについて、他の組織と連携・協働している事業があればご記入ください。

【回答概要】

- 地域の祭りやイベントを活用した事例、区役所と連携した講習会などの事例が多く挙げた一方、スポーツ推進委員会や体育振興会^{※16}、企業と連携した事例は少ない。
- 大学については、部活動の支援や大会参加依頼などの活動に留まっており、大会の支援(運営協力)、講習会の開催などの実施件数は少ない。

(2) 他の組織とお互いにボランティアなど競技・大会等を支えあう事業があればご記入ください。

【回答概要】

- ボランティア活動等において他の組織との、協働・連携を実施している団体は少ない。(1)の設問に対する回答と同じ内容を記載する団体が多かった。

(3) 他の競技団体(障がい者スポーツ団体を含む)や体育施設(管理者)、行政と情報交換を普段から行っている事例があれば具体的な内容をご記入ください。

【回答概要】

- 札幌協加盟競技団体5団体の他、指定管理者^{※19}3団体、障がい者スポーツ協会からの回答のみと極端に回答が少なく、行政や施設管理者、他の競技団体との交流が少ない状況である。

(4) 今後、他の組織と連携・協働して実施予定、または実施を検討している事業があれば具体的な内容をご記入ください。

【回答概要】

- 札幌協加盟競技団体からは7団体、障がい者スポーツ団体からは1団体の回答。指定管理者^{※19}3団体、障がい者スポーツ協会からも回答があった。
- 北海道車いすテニス協会から回答があった「ガチパラ」については、既に道内で数回開催されており、東京2020オリンピック・パラリンピックの開催や、冬季オリンピック・パラリンピックの招致を検討する札幌市においては、今後、他組織と連携する取り組みにおいて新たな視点となる。
- その他、さっぽろ健康スポーツ財団と札幌振興公社との連携事業、さっぽろ健康スポーツ財団・札幌協・障がい者スポーツ協会の3者による資源の有効活用などが挙げられたが、競技団体においては現在の活動が中心となっており、他団体との連携による新たな活動については、ほとんど触れられていない状況となっている。

(5) 札幌市で活動する「スポーツボランティア^{※9}」について、貴団体として依頼したいことがあればご記入ください。

【回答概要】

- 札幌協加盟競技団体から4団体、障がい者スポーツ団体から1団体、さっぽろ健康スポーツ財団、障がい者スポーツ協会の計6団体が回答。
- 競技団体については、基本的に他競技種目との連携より、各団体が自らの組織の活動に専念する傾向が強い。

◇(1)、(2)、(4)については、それぞれ「1 地域(区・町内会)」、「2 地域(スポーツ推進委員会・体育振興会)」、「3 企業・大学」、「4 競技団体(障がい者スポーツ団体を含む)」、「5 スポーツクラブ等」、「6 トップスポーツチーム・選手等」との連携・協働について記述回答を求めた。

※9 【スポーツボランティア】…スポーツイベントや大会の運営のほかにも、スポーツサークルやクラブチームの運営、指導者や審判、地域のスポーツ活動等のボランティアとして携わることを目指す

※16 【体育振興会】…地域のスポーツ振興を図ることを目的として、学校を拠点として自主管理運営する、地域住民による組織

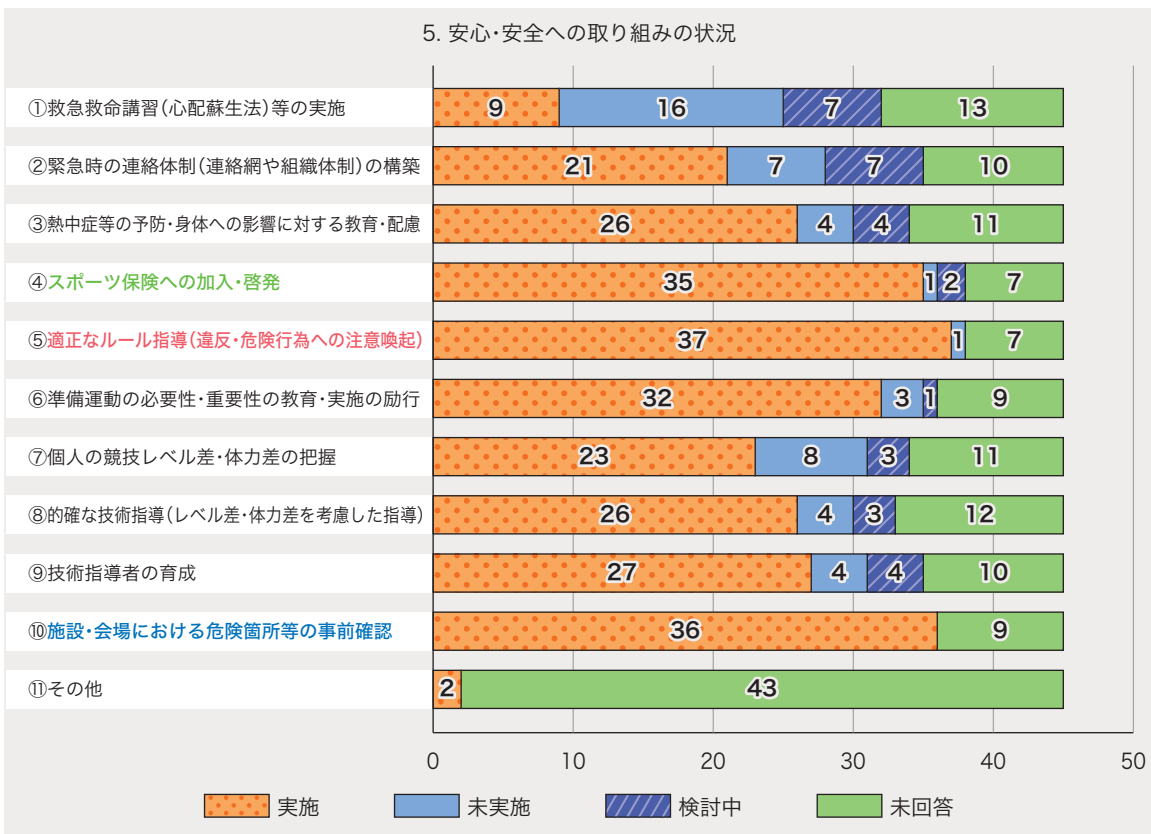
5. 安全・安心への取り組みに関すること

※札幌市体育協会加盟競技団体・障がい者スポーツ団体 共通設問

※各項目から「実施・未実施・検討中」のいずれか一つを選択

- ① 救急救命講習(心配蘇生法)等の実施
- ② 緊急時の連絡体制(連絡網や組織体制)の構築
- ③ 熱中症等の予防・身体への影響に対する教育・配慮
- ④ **スポーツ保険への加入・啓発**
- ⑤ **適正なルール指導(違反・危険行為への注意喚起)**
- ⑥ 準備運動の必要性・重要性の教育・実施の励行
- ⑦ 個人の競技レベル差・体力差の把握
- ⑧ 的確な技術指導(レベル・体力さを考慮した指導)
- ⑨ 技術指導者の育成
- ⑩ **施設・会場における危険箇所等の事前確認**
- ⑪ その他

【回答:45団体/全63団体 回答率:67.2% 回答数:353件】



◇各項目について、それぞれ「実施」、「未実施」、「検討中」を選択、未回答については別に集計。

※19 **【指定管理者】**…公の施設の設置目的を効果的に達成するため、法令等に基づき、その施設の管理運営を行うよう、地方公共団体によって指定された、法人その他の団体

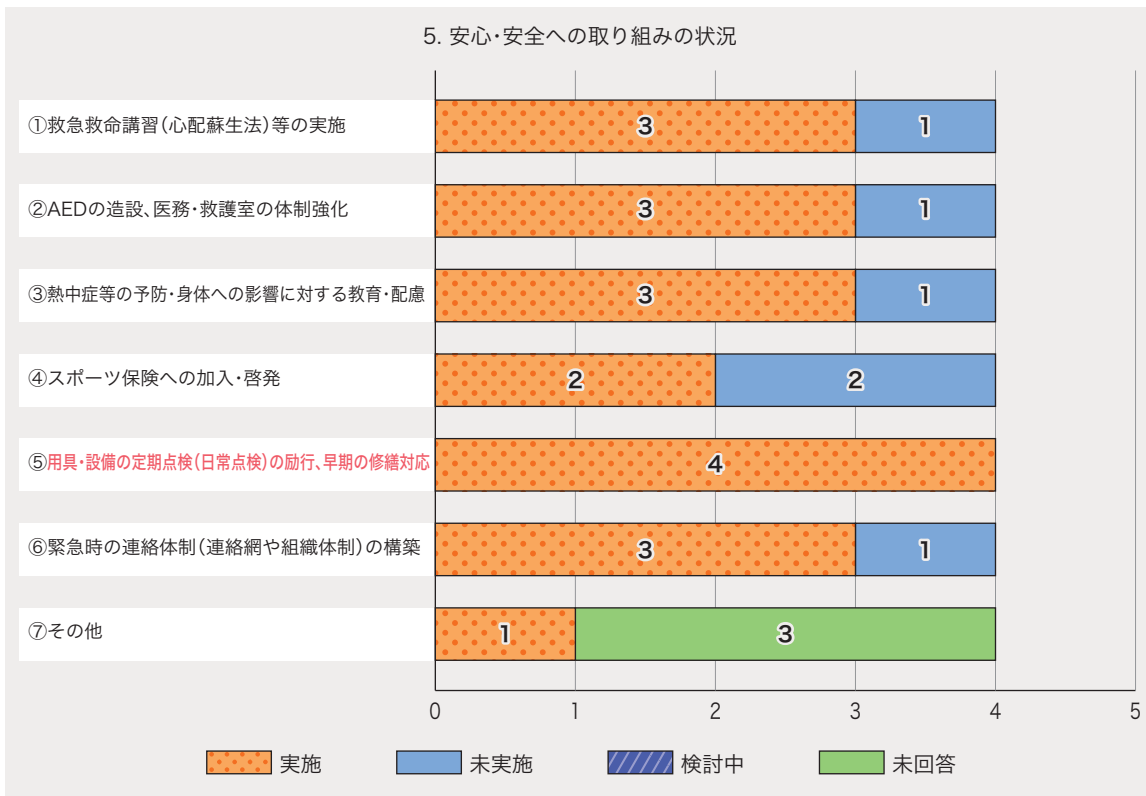
5. 安全・安心への取り組みに関すること

※指定管理者^{※19}・障がい者スポーツ協会共通設問

※各項目から「実施・未実施・検討中」のいずれか一つを選択

- ① 救急救命講習(心配蘇生法)等の実施
- ② AEDの増設、医務・救護室の体制強化
- ③ 熱中症等の予防・身体への影響に対する教育・配慮
- ④ スポーツ保険への加入・啓発
- ⑤ 用具・設備の定期点検(日常点検)の励行、早期の修繕対応
- ⑥ 緊急時の連絡体制(連絡網や組織体制)の構築
- ⑦ その他

【回答:4団体/全4団体 回答率:100% 回答数:25件】



※19 【指定管理者】…公の施設の設置目的を効果的に達成するため、法令等に基づき、その施設の管理運営を行うよう、地方公共団体によって指定された、法人その他の団体

6. 公共スポーツ施設等の利用状況について ※札幌市体育協会加盟競技団体への設問

1 貴団体が利用している公共スポーツ施設について、該当する番号すべてに○をつけてください。

(1) 体育館施設 ※複数回答

- ① 中央体育館 ② 北区体育館 ③ 東区体育館 ④ 白石区体育館
- ⑤ 厚別区体育館 ⑥ 豊平区体育館 ⑦ 清田区体育館(プール併設)
- ⑧ 南区体育館 ⑨ 西区体育館(プール併設) ⑩ 手稲区体育館
- ⑪ 中島体育センター ⑫ 宮の沢屋内競技場 ⑬ 美香保体育館(夏季)
- ⑭ 北海きたえーる(北海道立総合体育館)
- ⑮ 真駒内セキスイハイムアイスアリーナ(真駒内公園屋内競技場・夏季)
- ⑯ 利用していない

【回答:37団体/全53団体 回答率:69.8% 回答数:163件 ※未回答4件含む】

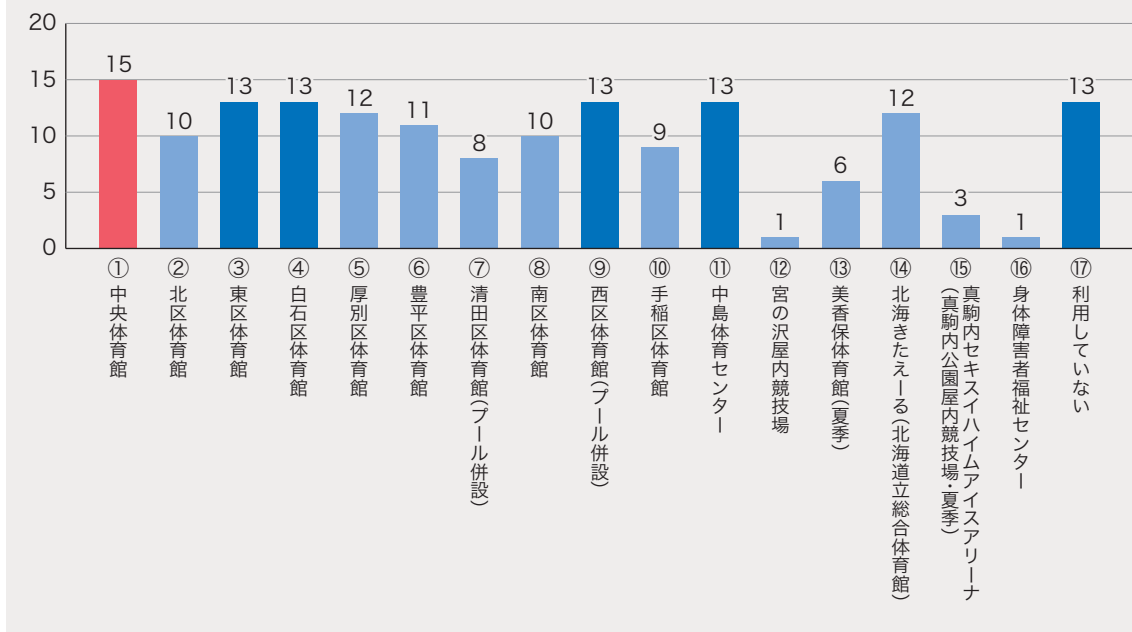
6. 公共スポーツ施設等の利用状況について ※障がい者スポーツ団体への設問

(1) 体育館施設 ※複数回答

- ① 中央体育館 ② 北区体育館 ③ 東区体育館 ④ 白石区体育館
- ⑤ 厚別区体育館 ⑥ 豊平区体育館 ⑦ 清田区体育館(プール併設)
- ⑧ 南区体育館 ⑨ 西区体育館(プール併設) ⑩ 手稲区体育館
- ⑪ 中島体育センター ⑫ 宮の沢屋内競技場 ⑬ 美香保体育館(夏季)
- ⑭ 北海きたえーる(北海道立総合体育館)
- ⑮ 真駒内セキスイハイムアイスアリーナ(真駒内公園屋内競技場・夏季)
- ⑯ 身体障害者福祉センター ⑰ 利用していない

【回答:4団体/全10団体 回答率:40.0% 回答数:4件】

6-1. 公共スポーツ施設等の利用状況(1)体育館施設の利用状況



6. 公共スポーツ施設等の利用状況について

※札幌市体育協会加盟競技団体・障がい者スポーツ団体 共通設問

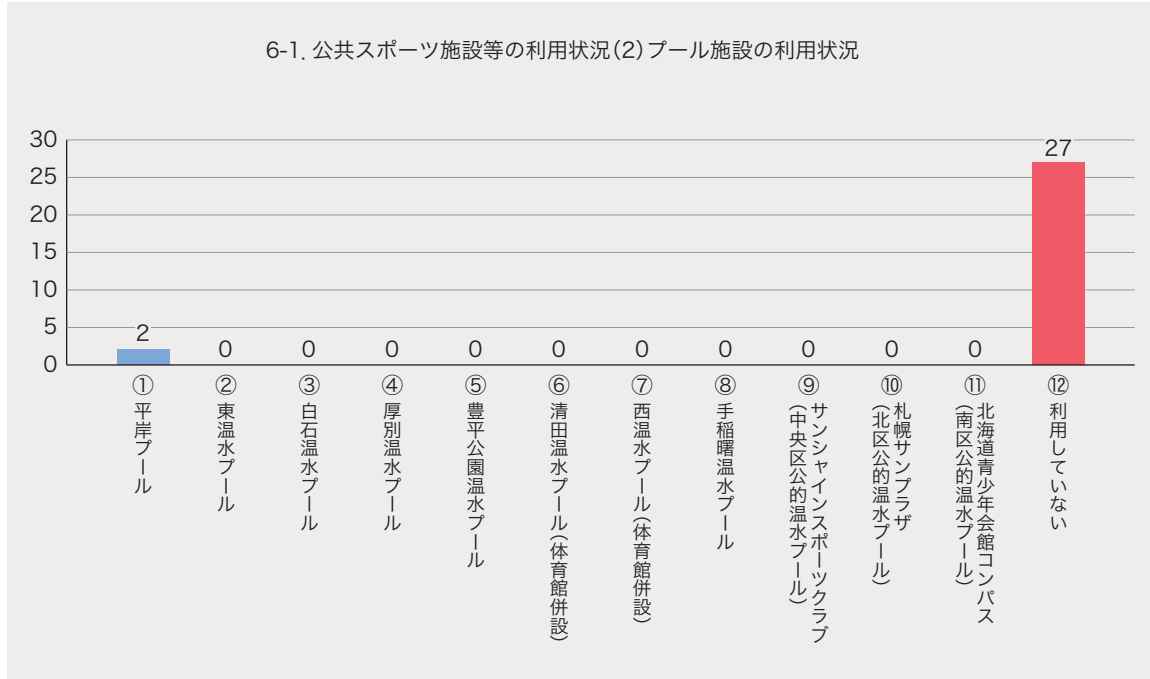
1 貴団体が利用している公共スポーツ施設について、該当する番号すべてに○をつけてください。

(2) プール施設 ※複数回答

- ① 平岸プール ② 東温水プール ③ 白石温水プール ④ 厚別温水プール
- ⑤ 豊平公園温水プール ⑥ 清田温水プール(体育館併設)
- ⑦ 西温水プール(体育館併設) ⑧ 手稲曙温水プール
- ⑨ サンシャインスポーツクラブ(中央区公的温水プール)
- ⑩ 札幌サンプラザ(北区公的温水プール)
- ⑪ 北海道青少年会館コンパス(南区公的温水プール) ⑫ **利用していない**

【回答:29団体/全63団体 回答率:46.0% 回答数:45件 ※未回答16件を含む】

6-1. 公共スポーツ施設等の利用状況(2) プール施設の利用状況



6. 公共スポーツ施設等の利用状況について

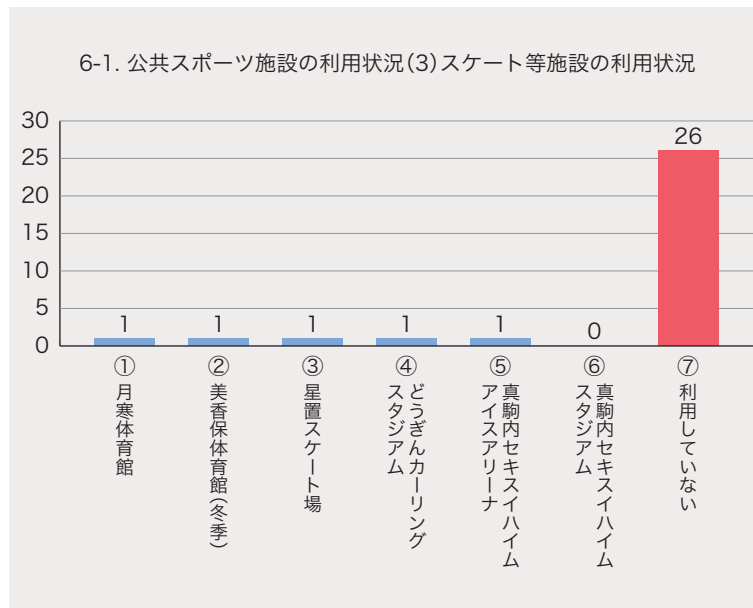
※札幌市体育協会加盟競技団体・障がい者スポーツ団体 共通設問

1 貴団体が利用している公共スポーツ施設について、該当する番号すべてに○をつけてください。

(3)スケート等施設 ※複数回答

- ① 月寒体育館 ② 美香保体育館(冬季) ③ 星置スケート場
- ④ どうぎんカーリングスタジアム
- ⑤ 真駒内セキスイハイムアイスアリーナ(真駒内公園屋内競技場・冬季)
- ⑥ 真駒内セキスイハイムスタジアム(真駒内公園屋外競技場・冬季)
- ⑦ **利用していない**

【回答:28団体/全63団体 回答率:44.4% 回答数:48件 ※未回答17件を含む】



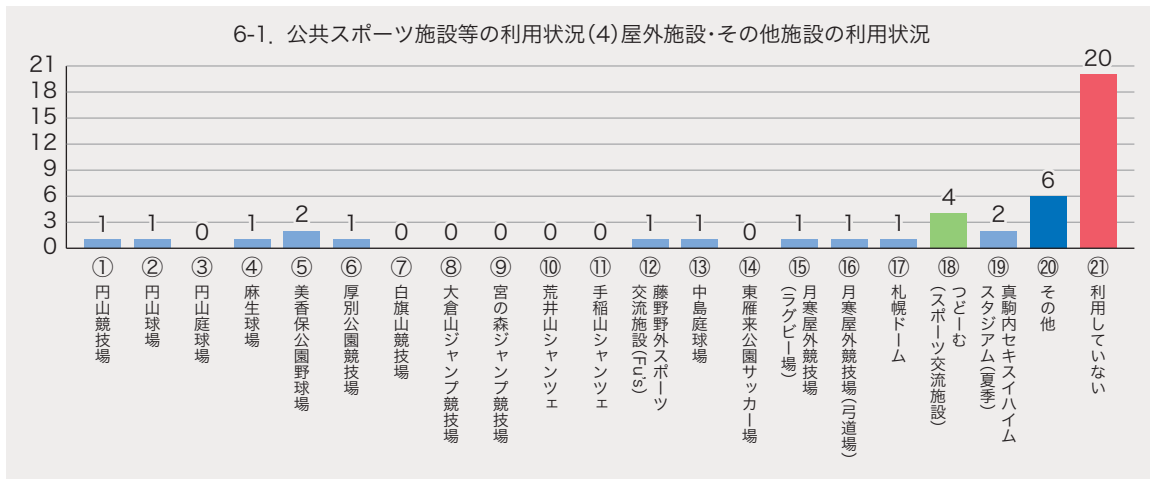
6. スポーツ施設等の利用状況について ※札幌市体育協会加盟競技団体・障がい者スポーツ団体 共通設問

1 貴団体が利用している公共スポーツ施設について、該当する番号すべてに○をつけてください。

(4)屋外施設・その他 ※複数回答

- ① 円山競技場 ② 円山球場 ③ 円山庭球場 ④ 麻生球場
- ⑤ 美香保公園野球場 ⑥ 厚別公園競技場 ⑦ 白旗山競技場
- ⑧ 大倉山ジャンプ競技場 ⑨ 宮の森ジャンプ競技場 ⑩ 荒井山ジャンツェ
- ⑪ 手稲山ジャンツェ ⑫ 藤野野外スポーツ交流施設(Fu's)
- ⑬ 中島庭球場 ⑭ 東雁来公園サッカー場
- ⑮ 月寒屋外競技場(ラグビー場) ⑯ 月寒屋外競技場(弓道場)
- ⑰ 札幌ドーム ⑱ つどーむ(スポーツ交流施設)
- ⑲ 真駒内セキスイハイムスタジアム(真駒内公園屋外競技場・夏季)
- ⑳ その他 ㉑ 利用していない

【回答:35団体/全63団体 回答率:55.6% 回答数:53件 ※未回答10件を含む】



6. 公共施設スポーツ施設等の利用状況について

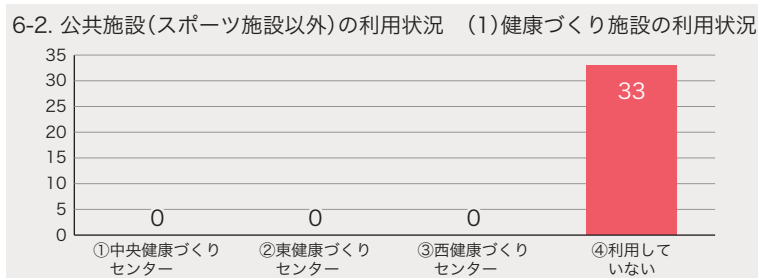
※札幌市体育協会加盟競技団体・障がい者スポーツ団体 共通設問

2 貴団体が利用している公共施設(スポーツ施設以外)について、該当する番号すべてに○をつけるか、施設名をご記入ください。

(1)健康づくり施設 ※複数回答

- ① 中央健康づくりセンター ② 東健康づくりセンター ③ 西健康づくりセンター
- ④ 利用していない

【回答:33団体/全63団体 回答率:52.4% 回答数:45件 ※未回答12件を含む】



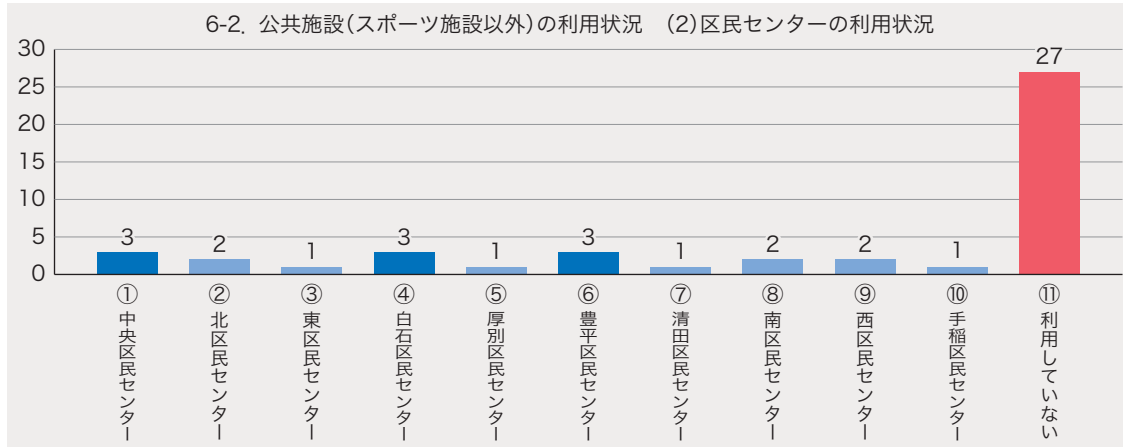
6. スポーツ施設等の利用状況について ※札幌市体育協会加盟競技団体・障がい者スポーツ団体 共通設問

2 貴団体が利用している公共施設(スポーツ施設以外)について、該当する番号すべてに○をつけるか、施設名をご記入ください。

(2)区民センター ※複数回答

- ① 中央区民センター ② 北区民センター ③ 東区民センター ④ 白石区民センター
- ⑤ 厚別区民センター ⑥ 豊平区民センター ⑦ 清田区民センター
- ⑧ 南区民センター ⑨ 西区民センター ⑩ 手稲区民センター
- ⑪ 利用していない

【回答29団体 / 全63団体 回答率:46.1% 回答数:57件 ※未回答11件を含む】

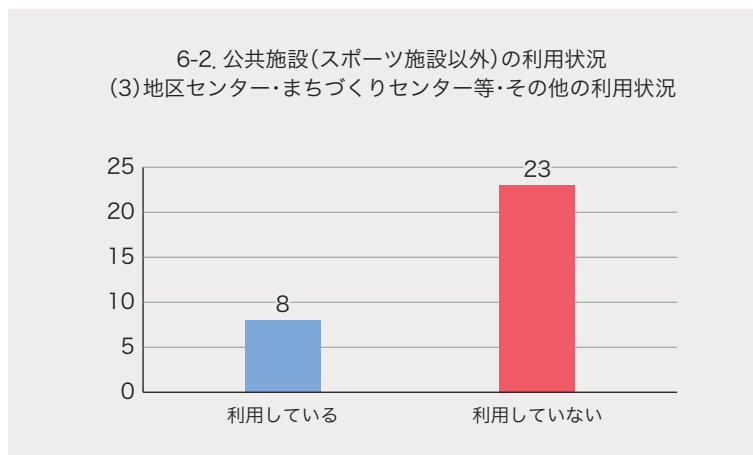


6. スポーツ施設等の利用状況について ※札幌市体育協会加盟競技団体・障がい者スポーツ団体 共通設問

2 貴団体が利用している公共施設(スポーツ施設以外)について、該当する番号すべてに○をつけるか、施設名をご記入ください。

(3)地区センター・まちづくりセンター等・その他 ※複数記述回答

【利用団体数:8団体 未利用団体:23団体】



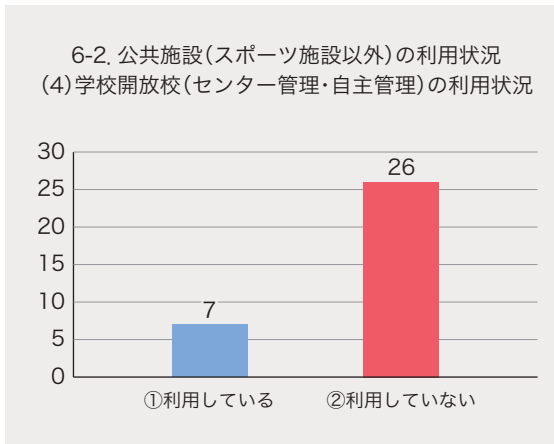
6. スポーツ施設等の利用状況について ※札幌市体育協会加盟競技団体への設問

2 貴団体が利用している公共施設(スポーツ施設以外)について、該当する番号すべてに○をつけるか、施設名をご記入ください。

(4)学校開放校(センター管理校・自主管理校)

- ① 利用している ② **利用していない**

【回答35団体/全53団体 回答率:66.0% 回答数:41件 ※未回答11件を含む】



【利用団体数:7団体 未利用団体:26団体】

【回答のあった学校開放施設】

札幌緑小学校、苗穂小学校、東白石小学校、
新陵東小学校、円山小学校、

※その他各クラブ単位で各地区小学校・
中学校を利用されている団体あり
(学校名等不明)

6. スポーツ施設等の利用状況について ※障がい者スポーツ団体への設問

2 貴団体が利用している公共施設(スポーツ施設以外)について、該当する番号すべてに○をつけるか、施設名をご記入ください。

(4)学校開放校(みなみの杜高等支援学校・センター管理校・自主管理校)

※複数記述回答

① 市立みなみの杜高等支援学校について

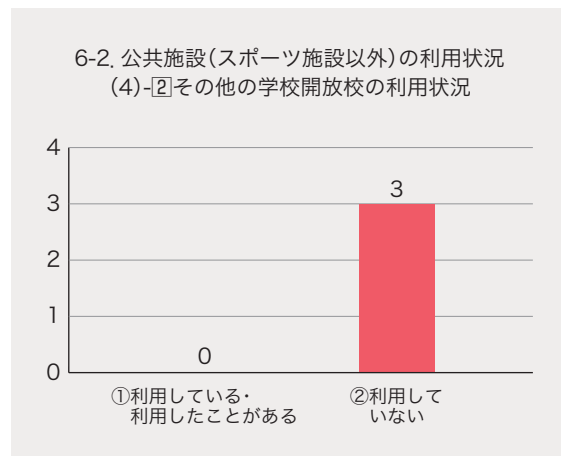
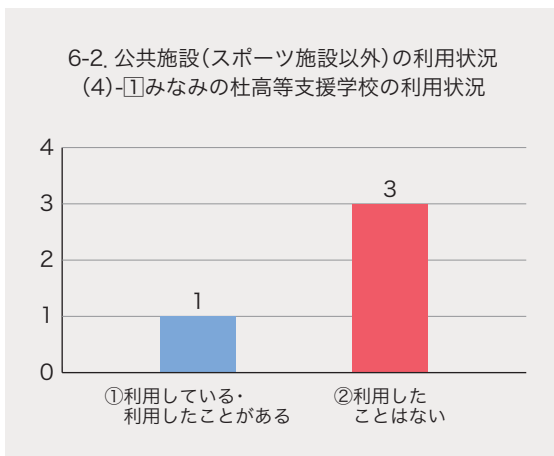
- ① 利用している・利用したことがある ② **利用したことはない**

② その他の学校開放について

- ① 利用している・利用したことがある ② **利用していない**

※利用している・利用したことがある場合は、「主に利用している学校名」を3校まで記述

【回答4団体/全10団体 回答率:40% 回答数:4件 ※(4)-②において未回答1件を含む】



7. 利用施設に関すること

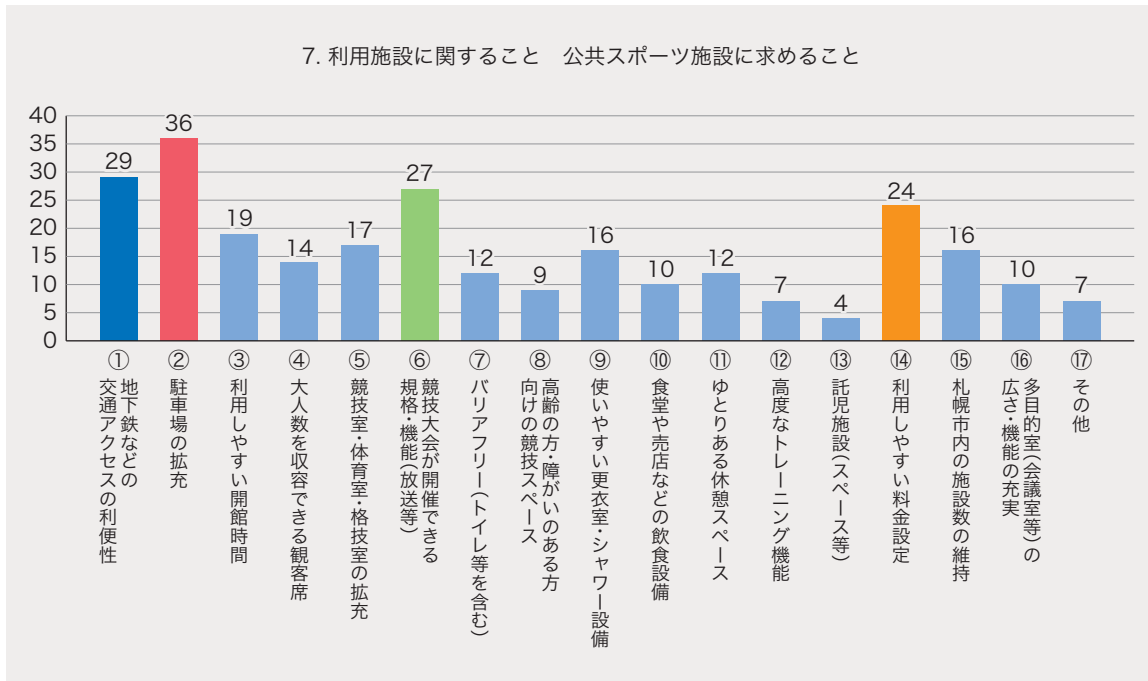
※札幌市体育協会加盟競技団体・障がい者スポーツ団体 共通設問

貴団体が公共スポーツ施設に求めることについて、該当する番号すべてに○をつけてください。

※複数回答

- ① 地下鉄などの交通アクセスの利便性
- ② 駐車場の拡充
- ③ 利用しやすい開館時間
- ④ 大人数を収容できる観客席
- ⑤ 競技室・体育室・格技室の拡充
- ⑥ 競技大会が開催できる規格・機能(放送等)
- ⑦ バリアフリー^{※5}(トイレ等を含む)
- ⑧ 高齢の方・障がいのある方向けの競技スペース
- ⑨ 使いやすい更衣室・シャワー設備
- ⑩ 食堂や売店などの飲食設備
- ⑪ ゆとりある休憩スペース
- ⑫ 高度なトレーニング機能
- ⑬ 託児機能(スペース等)
- ⑭ 利用しやすい料金設定
- ⑮ 札幌市内の施設数の維持
- ⑯ 多目的室(会議室等)の広さ・機能の充実
- ⑰ その他

【回答:41団体/全63団体 回答率:65.1% 回答数:273件 ※未回答4件含む】



※5 【バリアフリー】…高齢者や障がいのある方などが、社会生活をしていく上で障壁となるものを除去すること。道路、建物、交通手段など物理的なものだけでなく、社会的、制度的、心理的なものを含めた全ての障がい無くすこと

8. 民間施設、企業等が所有する施設の利用について

※札幌市体育協会加盟競技団体・障がい者スポーツ団体 共通設問

1 貴団体が利用している民間施設(スポーツクラブ・企業・大学の体育館等)について、利用している施設名をご記入ください。

※複数記述回答

【回答記入団体数: 15団体 / 全63団体】

【回答のあった利用している会場】

■高校の施設

山の手高等学校、立命館慶祥中学校・高等学校体育館、札幌東豊高等学校道場・体育館

■大学の施設

北海道科学大学体育館、北海道科学大学クライミングボード、天使大学中沼グラウンド、札幌学院大学、札幌国際大学、北海道東海大学、北海道大学

■多目的スペース(施設)

N T T セミナーセンター、札幌市商工会議所グラウンド

■専用スペース(施設)

秀岳荘クライミングボード(ウォール)、浦臼国際散弾銃射撃場、ときわぎ会館レスリング道場、太陽G少年野球場、自衛隊施設、銭函ヨットハーバー、厚別パークボウル、総合レジャーサンコーボウル、サッポロオリンピックボウル

■スポーツクラブ

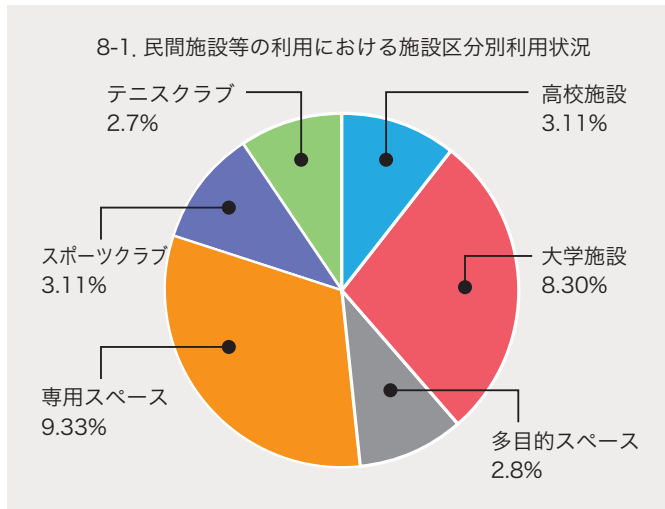
スポーツクラブZIP、KONAMI、イーアス

■テニスクラブ

あけぼのテニスクラブ、スウイング89

【区分別】

高校施設	3	11.1%
大学施設	8	29.6%
多目的スペース	2	7.4%
専用スペース	9	33.3%
スポーツクラブ	3	11.1%
テニスクラブ	2	7.4%
合計	27	



8. 民間施設、企業等が所有する施設の利用について

※札幌市体育協会加盟競技団体・障がい者スポーツ団体 共通設問

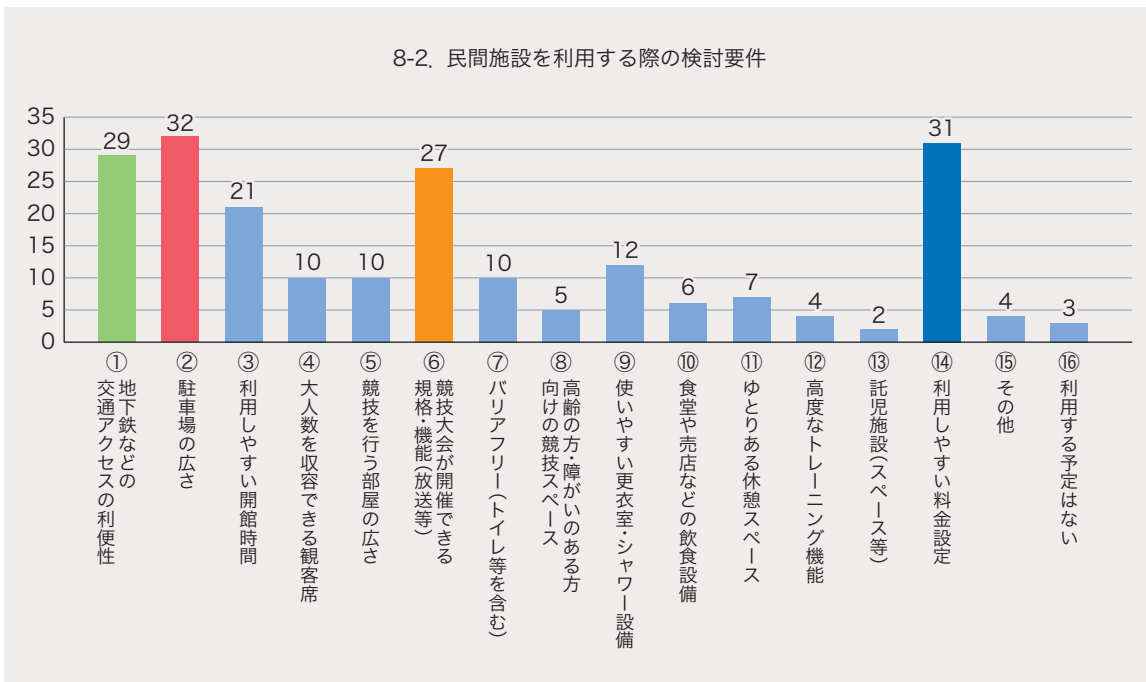
2 ※「現在民間施設の利用がない団体もご回答ください」

貴団体が今後、民間施設を利用する、または利用する可能性を検討する際の利用条件等についてお聞きします。該当する番号すべてに○をつけてください。

※複数記述回答

- | | |
|----------------------------------|-------------------------|
| ① 地下鉄など交通アクセスの利便性 | ② 駐車場の広さ |
| ③ 利用しやすい開館時間 | ④ 大人数を収容できる観客席 |
| ⑤ 競技を行う部屋の広さ | ⑥ 競技大会が開催できる規格・機能(放送等) |
| ⑦ バリアフリー ^{※5} (トイレ等を含む) | ⑧ 高齢の方・障がいのある方向けの競技スペース |
| ⑨ 使いやすい更衣室・シャワー設備 | ⑩ 食堂や売店などの飲食設備 |
| ⑪ ゆとりある休憩スペース | ⑫ 高度なトレーニング機能 |
| ⑬ 託児機能(スペース等) | ⑭ 利用しやすい料金設定 |
| ⑮ その他 | ⑯ 利用する予定はない |

【回答:43団体/全63団体 回答率:68.3% 回答数:215件 ※未回答2件を含む】



※5 【バリアフリー】…高齢者や障がいのある方などが、社会生活をしていく上で障壁となるものを除去すること。道路、建物、交通手段など物理的なものだけでなく、社会的、制度的、心理的なものを含めた全ての障がい無くすこと

9. 公共スポーツ施設の維持・保全について

※札幌市体育協会加盟競技団体他 共通設問

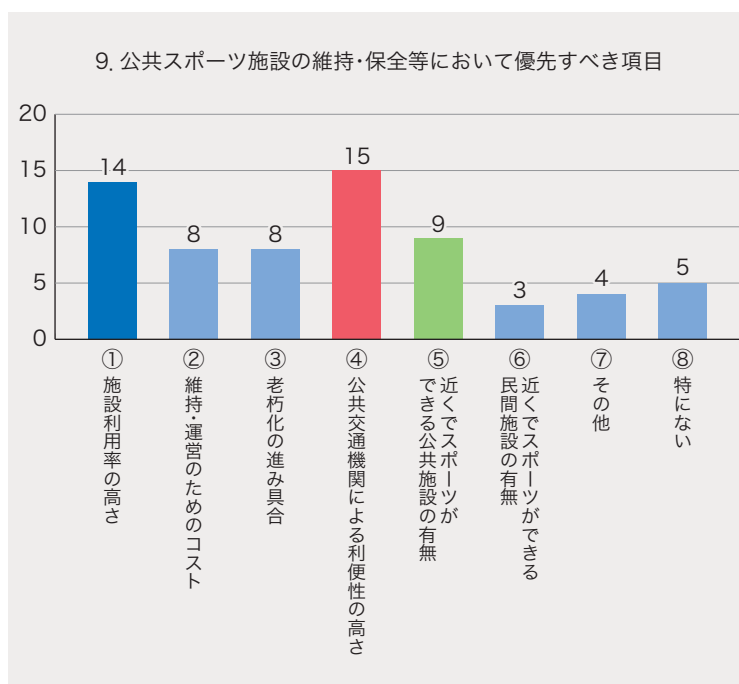
札幌市の公共スポーツ施設は近い将来一斉に建物の更新時期を迎えることになり、これらに必要となる費用の増大が見込まれています。このことを踏まえ、これからも市民がスポーツに親しめる環境を維持していくために、札幌市の公共スポーツ施設についてどのようなことを優先して整備していくか、貴団体の考えに最も近い番号に1つだけ○をつけてください。

※単数回答

- ① 施設の利用率の高さ
- ② 維持・運営のためのコスト
- ③ 老朽化の進み具合
- ④ 公共交通機関による利便性の高さ
- ⑤ 近くでスポーツができる公共施設の有無
- ⑥ 近くでスポーツができる民間施設の有無
- ⑦ その他
- ⑧ 特にない

【回答:45団体/全67団体 回答率:67.1% 回答数:70件

※一部団体(11団体)が複数回答、未回答4件を含む】



6 「これからの私たちとスポーツを考えるワークショップ」結果概要

■実施日時

平成30(2018年)年7月22日(日) 14:00~17:00

■会場

札幌市中央区北2条西7丁目 北海道立道民活動センターかでの2・7
710会議室

■参加人数

34人(うち、札幌市立高校生から13人)

■ワークショップ実施の目的

札幌市スポーツ推進計画の改定版策定にあたり、市民の運動・スポーツ活動などに関するニーズや課題を聴取し、計画内容に市民意見を反映することを目的とする。

■実施手法

無作為に抽出した18歳以上の市民3,000人に募集チラシを郵送し、参加を希望された方21人と、札幌市立高校生から募集し参加を希望した13人を合わせた34人で実施しました。

また、参加者を5~6人のグループに分け、大テーマ1、大テーマ2について意見交換を行いました。

大テーマ1 「広く市民がスポーツに親しむために必要なこと」

〈小テーマ〉

- ①「健康」 ×スポーツ
- ②「仕事・家事・子育て・介護」×スポーツ
- ③「学び・教育・学校」 ×スポーツ
- ④「多様性・共生」 ×スポーツ
- ⑤「地域や経済の活性化」 ×スポーツ
- ⑥「冬」 ×スポーツ

大テーマ2 「広く市民がスポーツに親しむために必要な施設や場所」

〈小テーマ〉

- ①公共スポーツ施設がどんな場所や利用環境にあると利用したいか。
- ②公共スポーツ施設以外でスポーツを行う場所として、どんなところが利用できるとよいか。

■ワークショップの結果

大テーマ1 広く市民がスポーツに親しむために必要なこと

各グループに①～⑥の小テーマを設定し、各テーマについて意見交換を行いました。意見交換で出た意見は下記のとおり①～④に分類し、主な意見内容をまとめました。

小テーマ	意見の分類
小テーマ1:「健康」×スポーツ	①ライフステージ ^{※2} 別にみる、スポーツに親しむために必要なこと(高齢者世代、勤労・子育て世代、子ども・学生世代)
小テーマ2:「仕事・家事・子育て・介護」×スポーツ	
小テーマ3:「学び・教育・学校」×スポーツ	
小テーマ4:「多様性・共生」×スポーツ	②多様性・共生の視点でみる、スポーツに親しむために必要なこと
小テーマ5:「地域や経済の活性化」×スポーツ	③地域や経済の活性化の視点でみる、スポーツに親しむために必要なこと
小テーマ6:「冬」×スポーツ	④「冬(ウインタースポーツ)」の視点でみる、スポーツに親しむために必要なこと

①ライフステージ^{※2}別にみる、スポーツに親しむために必要なこと

(各世代における傾向)

- 高齢者世代は、身近で安全にスポーツできる環境を求める声が多い。
- 勤労・子育て世代は、多忙な日常の中でスポーツするきっかけや、“ながら時間”“すき間時間”の活用に向けた発想の転換、家族や周囲を含めてスポーツに親しめる環境づくりなどが必要とされている。
- 子ども・学生世代は、スポーツを楽しめる環境づくりと指導者の育成、大人(両親など)の働きかけ、スポーツ施設利用にあたり費用負担の軽減などが必要とされている。

●高齢者世代

【小テーマ1:「健康」×スポーツで出た意見を中心に整理】

項目	妨げとなること	必要なこと
スポーツできる身近な場所	・スポーツできる身近な場所が少ない(高齢なので近くに施設があるとよい)。	・身近な施設の利便性向上(学校開放、公共体育館等の増加や利用日時の拡大)など
安全面での配慮	・高齢者には危険な箇所(段差など)がある。	・バリアフリー ^{※5} 整備、安心してスポーツできるルールづくりなど

※2 **【ライフステージ】**…人間の一生において節目となる出来事(出生、入学、卒業、就職、結婚、出産、子育て、退職など)によって区分される生活環境の段階

※5 **【バリアフリー】**…高齢者や障がいのある方などが、社会生活をしていく上で障壁となるものを除去すること。道路、建物、交通手段など物理的なものだけでなく、社会的、制度的、心理的なものを含めた全ての障がい無くすること

●勤労・子育て世代

【小テーマ2:「仕事・家事・子育て・介護」×スポーツで出た意見を中心に整理】

項目	妨げとなること	必要なこと
きっかけづくり	<ul style="list-style-type: none"> 仕事や家事などで疲れてしまい、スポーツする気持ちになれない。 	<ul style="list-style-type: none"> きっかけづくり(声掛け、お誘いなど) スポーツの楽しさを知ること スポーツを教えてもらうことなど
スポーツする時間づくり(意識の転換)	<ul style="list-style-type: none"> スポーツする時間をつくるのが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 仕事や家事の中でもスポーツすることができるという意識の転換(例:通勤や通学で歩くこともスポーツ) 通勤・通学・家事・子育てに運動を取り入れること 家でもできるスポーツをやってみることなど
みんなでスポーツできる環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> スポーツをしようとしたときに、子育てせずに遊びに行くと家族に思われてしまう。 スポーツするタイミングが合わない(自分がスポーツできる時間に施設や仲間と時間が合わない)。 	<ul style="list-style-type: none"> 家族と一緒にスポーツができるイベントや場所、きっかけづくり 利用時間や利用内容に自由度がある施設・環境づくりなど
託児の環境整備	<ul style="list-style-type: none"> スポーツしている間に預けられる場所がない。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもを預けられたり、遊ばせられる環境づくりなど

●子ども・学生世代

【小テーマ3:「学び・教育・学校」×スポーツで出た意見を中心に整理】

項目	妨げとなること	必要なこと
学校の部活	<ul style="list-style-type: none"> 部活での指導が厳しく、練習がハードなこと(学業との両立が難しくなってしまう) 部活や塾などで忙しく、部活以外でスポーツする時間がとりにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活の練習日を減らし、生徒の負担を減らすこと 指導者の適切な資質と高い人間性(スポーツのキャリアだけが重要ではない) 部活に対する親と教師の理解 スポーツを楽しめる環境づくり(部活で関わったスポーツを長く続けたいと思えること) 大会で勝つなどの経験(スポーツを続けたいと思うきっかけとなる) 部活と体育の中間程度の位置付けで、兼部できる仕組み など
学校の授業、行事	<ul style="list-style-type: none"> 運動嫌いの人が楽しめない。 	—
施設の利用料	<ul style="list-style-type: none"> 学生は、スポーツ施設の利用料が高いと利用しにくい。高校生は有料であるため、利用しなくなった。 	<ul style="list-style-type: none"> 公共スポーツ施設の利用にあたり、高校生も無料にするなど費用負担の軽減
大人の意識	—	<ul style="list-style-type: none"> 子どもにスポーツを勧めるなど、大人の意識が変わること(親からの影響でスポーツを始めることも多い) など
その他	<ul style="list-style-type: none"> 海外では、スポーツを楽しむことが重要とされている。学校教育(体育)と社会体育のあり方の問題が根底にあると思う。 スポーツの基本動作(投げる、走るなど)ができない子どもが多いと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 昔の考え方を大切にしながらも、現代のニーズに合わせたスポーツに対する考え方もつなど

②多様性・共生の視点でみる、スポーツに親しむために必要なこと

【小テーマ4:「多様性・共生」×スポーツで出た意見を中心に整理】

- 誰もが一緒にスポーツできる場所や利用環境、機会(イベント等)、意識啓発を行うことが必要とされている。
- 障がいのある人や外国人などに向け、スポーツ施設の利用条件等に関する情報提供が必要とされている

項目	妨げとなること	必要なこと
障がいのある人も一緒にスポーツできる環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいのある子供がスポーツをする際に声を上げて周囲を驚かせてしまい一緒に遊びにくい。 ・障がいがある人も一緒に使えるスポーツ施設がない。また、障がい者用設備等を分けると対応できる施設が少なくなってしまうと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいがある人でも一緒に利用できる施設整備 ・一緒に利用することが当たり前環境づくり ・車いすバスケットボールを体験できるなどの機会があると様々な人ができるようになる。など
情報	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいのある人が利用できる施設がどこにあるのかわからない。 ・外国人にわかりやすい情報が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいがある人や外国人などが利用できる施設に関する情報提供 など
皆ができるスポーツ	<ul style="list-style-type: none"> ・“女性はヨガ”、“高齢者は太極拳”などの固定観念がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいの有無や性別、年代など問わず、一同に会してスポーツできる施設や新しいスポーツの創造

③地域や経済の活性化の視点でみる、スポーツに親しむために必要なこと

【小テーマ5：「地域や経済の活性化」×スポーツで出た意見を中心に整理】

- 地域の活性化について、スポーツができる地域の身近な場所、様々な人が楽しむことができる機会、情報提供が必要とされている。
- 経済の活性化について、観光客やアウトドアスポーツ客の入込が期待できる自然(登山道など)や関連施設の整備、外国語対応などが必要とされている。

項目	妨げとなること	必要なこと
地域の活性化	<ul style="list-style-type: none"> • 雪かきなどの作業でスポーツする時間がとりにくい。 • 地域の人を外に出られるようなきっかけや仕組みが少ない。 • スポーツイベントの情報は、回覧では十分な効果を得にくい。 	<ul style="list-style-type: none"> • 会社や学校などの体育行事に地域住民が参加できる仕組み • 会社や地域でチームをつくり、スポーツ大会などを開催すること • カーリングは性別や年代等を限定することなく多くの人が取り組みやすいスポーツだと思うので、町内会などで取り組むと良い。 • 子どもから高齢者まで楽しむことができる場所 • スポーツできる場所を身近につくること(民有地と連携してもよい) • 体育館が使える日時の拡大 • 体育館などを様々な人が利用できるよう周知すること • 案内チラシを戸別に配付すること • 子どもの参加数を増やすため、イベントへの参加募集を学校から情報提供すること • 町内会など、身近に教えてくれる人の存在など
経済の活性化(観光振興、アウトドアなど)	<ul style="list-style-type: none"> • 登山道などの整備が十分ではない。郊外の自然は外国人からの需要もあるが、整備が追い付いていない。 	<ul style="list-style-type: none"> • 観光地を巡るウォーキングコース • 郊外の自然を生かすため、山道やビューポイントの整備と、外国語案内板や行程表の整備 • ロングトレイルやサイクリング等に取り組む人のため、トイレ、コース、室内競技場の整備など
経済の活性化(施設配置)	<ul style="list-style-type: none"> • 多くの集客を見込めるスポーツ施設(パークゴルフ、サイクリングなど)にアクセスするための交通手段に課題がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 行きやすいところ、わかりやすい所への施設配置 など

④冬(ウインタースポーツ)の視点でみる、スポーツに親しむために必要なこと

【小テーマ6:「冬」×スポーツで出された意見・アイデアを中心に整理】

- ウインタースポーツの実施に必要な費用の負担軽減、交通利便性の向上に関する取組、気軽にウインタースポーツができる取組(参加しやすいスキー教室など)が必要とされている。
- スキー場で楽しめる工夫や、冬(雪)のスポーツに対する発想の転換についてアイデアがみられる。
- そのほか、ウインタースポーツにおける怪我の予防講習など、オフシーズンにおける取組に関するアイデアもみられる。

項目	妨げとなること	必要なこと
大きな費用負担	<ul style="list-style-type: none"> ウェアや用具などの購入費、用具レンタル料、リフト代などの負担が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 気軽にできるよう、レンタルできる用具の種類を充実させたり、レンタル料金を安くしたり無料にすること ウェアや用具のリサイクルやおさがり制度など
交通	<ul style="list-style-type: none"> スキー場などが遠く、交通の便が悪くて行きにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> 送迎バスの本数や停留所の増加 身近な公園に雪山をつくること など
天候	<ul style="list-style-type: none"> 寒い。 天候に左右されやすい。 	—
体力や怪我	<ul style="list-style-type: none"> 高齢で足腰が弱くなってきているため、怪我が心配である。 シーズンオフの期間が長いので、冬期以外のスポーツと比べて怪我をしやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> オフシーズンに怪我を防止する講習会などの開催 など
個人の意識や技術	<ul style="list-style-type: none"> 一人では行きづらい。 子供に教えることができない。 	<ul style="list-style-type: none"> 気軽に参加できるスキー教室の充実(子どもだけでなく親向けもあると良い) 初心者でも参加できるサークルや教室等に関する情報提供 有名選手と一緒に競技を行えるイベント等によるきっかけづくり など
その他	—	<ul style="list-style-type: none"> 札幌の雪質が良いことに関する積極的なPR スキー場などに行って一日中楽しめる工夫(ロッジの飲食メニューを充実させるなど) 家の中での運動 自宅の雪かきをスポーツとして考えることなど

⑤その他、スポーツに親しむために必要なこと

【複数の小テーマに関連して出された主な意見・アイデア】

- 施設・利用環境の改善、安全なスポーツ環境づくりのためのルールづくり、情報提供、札幌の強みを生かしたスポーツを広く推進することなどが必要とされている。
- 個人レベルでの意識の転換が必要であるという意見もみられる。

項目	妨げとなること	必要なこと
施設・利用環境	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツできる施設が身近にない。または施設まで遠い、不便。 ・スポーツ施設が古い。 ・施設数が少なく、混んでいることが多い(カーリング場)。 ・公園では球技ができない。 ・天候が悪い場合、スポーツできる場所が限られる。 ・スポーツ施設利用料が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地下鉄に自転車を乗り入れられるようにすること(駅から離れている場所にも行きやすい) ・気軽に利用できる料金設定 ・お金をかけずに親しめるスポーツなど
安心安全	<ul style="list-style-type: none"> ・施設利用時に危険を感じることもある(公共体育館等の開放時における衝突など)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共体育館のルールを決めて市民に伝えること ・子どもから大人まで安心安全にスポーツを行える環境づくり
個人の意識の転換	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツしようと思っても面倒に感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それほど厳しくない目標を設定し、気持ちの余裕をもって無理なく取り組むこと ・日常動作の中で簡単に体を動かす心がけなど
情報	<ul style="list-style-type: none"> ・どんなスポーツがあるかわからない。 ・転勤などで引っ越した際、どこでどんなスポーツができるかわからない。 ・安全な散歩コースがわからない。 ・スポーツ施設が込み合うことが多いが、実際に行くまで混雑状況がわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を広報や町内会等を通じて市民に伝えること ・散歩マップの作成 など
札幌の強みを生かしたスポーツの推進	—	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌の強みを生かしたスポーツ(アイスホッケー、カーリングなど)を小中学校で教えたり、用具・施設を市民に無料で貸し出すことなど

大テーマ2 「広く市民がスポーツに親しむために必要な施設や場所」

各グループで以下の小テーマ1、2について意見交換を行いました。

意見交換の結果を小テーマごとにまとめました。

小テーマ
小テーマ1：公共スポーツ施設がどんな場所や利用環境にあると利用したいか。
小テーマ2：公共スポーツ施設以外でスポーツを行う場所として、どんなところが利用できるとよいか。

【小テーマ1：公共スポーツ施設がどんな場所や利用環境にあると利用したいか。】

- 施設配置については、地下鉄やJRの駅などから行きやすい場所のほか、買い物などほかの目的と合わせて利用できる利便性の高い場所が望まれている。
- 料金の引き下げを望む声が多い。単純な引き下げだけでなく、条件つきやイベント要素をもたせたアイデアもみられる。
- そのほか利用環境については、利用時間の拡張、運動器具類の利便性向上、施設利用者の調整、ルールの順守、一人でも利用しやすい工夫、スポーツ教室やイベントの充実、託児などが望まれている。
- 施設の利用方法や利用状況について、わかりやすい情報提供を求める声が見られる。

項目	内容
施設配置	<ul style="list-style-type: none"> ●駅(バス、地下鉄、JRなど)や学校の近くにあると使いやすい。 ●地下鉄から離れたところに立地している場合、送迎バスがあると良い。 ●まちなかなど、交通の便利な場所にあると良い。 ●サイクリングロードの近くにあると良い。 ●ショッピングモールやスーパー、百貨店と併設または隣接していると家族連れは利用しやすい。 ●大学の構内にあると良い。 ●1区に1つではなく、もう少し増やしてほしい(施設に近い人とそうでない人とで不公平に感じる など)
駐車場/駐輪場	<ul style="list-style-type: none"> ●駐車場が充実していると良い。 ●駐輪場が広くなってほしい。 など
利用料金	<ul style="list-style-type: none"> ●利用料金もう少し安くなると良い。 ●温水プールの一般料金が高い。 ●高校生も無料にしてほしい(中学生は無料だったが、高校生は有料になったので、利用しにくくなった)。 ●複数人で利用すると安くなるなど、料金の割引があると他の人を誘って利用しやすい。 ●曜日によって対象となる属性の人が無料で利用できる、イベント要素のある制度があるとよい。 ●公共施設の民営化を進め、より安く、より使いやすくなると良い。 など
利用時間	<ul style="list-style-type: none"> ●利用時間帯を拡張してほしい。 ●仕事をしている人も利用しやすい時間帯(早朝、夜間)に開放してほしい。 ●予約なしでも利用できる施設があると良い。 など
用具・器具類・設備等	<ul style="list-style-type: none"> ●用具貸出しをしてほしい。 ●備品レンタルを安くしてほしい。 ●古くなっている器具もあるので、定期的にリニューアルしてほしい。 ●靴置き場がない施設があるので、設置してほしい。
ルール等	<ul style="list-style-type: none"> ●白石区の施設は専用の靴が必要で面倒だった。どんな靴でも利用できると良い。 ●親切な係員を配置し、利用規則の見直しをしてほしい(以前、プール利用の際に眼鏡着用について注意された際に代替案の提示もなく不可とされた)。 ●体育館で、利用時間が決められていてもオーバーして利用している人もいるため、ルールを徹底してほしい。 など

項目	内容
利用者調整	<ul style="list-style-type: none"> 一定数以上は団体扱いとし、一般開放時の占有を解消してほしい。 利用する競技によっては、他区からの利用者も多く集まるため、調整が必要である。 年齢で利用が分かれていると使いやすい。 など
単独利用	<ul style="list-style-type: none"> グループで行うスポーツ以外では利用しにくく、特定のスポーツには入りにくい。 一人で行っても一緒にスポーツする人がいない。一人で行って気軽に楽しめる環境づくりが必要である。 一緒にスポーツできる人をコーディネートする人がいるなど など
スポーツ教室	<ul style="list-style-type: none"> 初心者向けのスポーツ教室が開かれると良い。 ・子ども(小学生以下)が通える教室を充実させてほしい。 教室の振替制度があると良い(現状、祭日が休館日に重なると利用できる回数が減ってしまう)。 など
託児など	<ul style="list-style-type: none"> 託児や遊ばせられるキッズスペースがあると良い。
イベント等	<ul style="list-style-type: none"> 公園で行われる子ども向けイベントを充実させてほしい。 ・みんなで楽しめるイベントがあると良い。 など
情報	<ul style="list-style-type: none"> 利用可能曜日や時間、利用方法などわかりやすい情報提供が必要である(現状は個別施設ごとにホームページを見る必要がある)。 ・空き状況、混雑状況などの情報が得られるとよい。 どこの施設でどんなスポーツができるのか、わかりやすい方法で情報提供してほしい。 障がいがある子どもに水泳を教えてくれる教室を知りたいが情報が少ないので情報提供してほしい。 など

【小テーマ2:公共スポーツ施設以外でスポーツを行う場所として、どんなところが利用できるとよいか。】

- 既存のスポーツ施設ほか、ショッピングセンターなどの店舗や各種施設のスペース等を活用するアイデアがみられる。
- 屋外については、公園利用を希望している人が多くみられる。

項目	内容
既存のスポーツ施設	<ul style="list-style-type: none"> 冬期間、ゴルフ場を歩くスキーに利用したい(実際にある)。 民間スポーツ施設の利用料や整備費を補助し、利用を促進してはどうか。 24時間利用できる民間スポーツ施設 など
店舗等	<ul style="list-style-type: none"> インターネットカフェ(ビリヤードや卓球ができる) スタジアムやカフェでイベントの開催(親子で行う体操等) 大型ショッピングセンターの通路(混雑時を避け、ウォーキング等ができる)→歩数をポイント化し、店舗で特典を受けられると良い。 ・百貨店 ・営業終了後の店舗駐車場 など
その他施設	<ul style="list-style-type: none"> 町内会館 ・児童会館 ・地区センターでのスポーツ利用を充実させてほしい ・小・中学校の運動場 学校の一般開放を個人でも利用できるようにしてほしい(現状はクラブチームの利用が多い) 市内にある専門学校のプール(夏期休暇中) リハビリ施設(機材や場所を活用し、一般の人も利用できるとよい) 市役所やマンション等の会議室 ・ビルの屋上 ・ホテルの宴会場 温泉施設(運動後に温泉が利用できて良い) など
屋外	<ul style="list-style-type: none"> 公園の自由度を高めて利用したい(現状はボールの使用やソリ遊びなど禁止事項が多い)。 あまり利用されていない公園を再整備してはどうか。 ・大きめの公園や空き地 ・河川敷、豊平川 冬期の駐輪場 ・歩道(散歩用) ・歩行者天国 ・サイクリングロードをもっと増やしてほしい。 など
その他	<ul style="list-style-type: none"> 個人のレッスン教室(高齢なので、サポートを受けて運動できる環境が望ましい) ・家の中 スポーツできる場所について、回覧板等で情報共有できると良い。 など

○札幌市スポーツ推進審議会条例

昭和38年3月26日 条例第14号

(設置)

第1条 本市は、スポーツ基本法(平成23年法律第78号)第31条の規定に基づき、札幌市スポーツ推進審議会(以下「審議会」という。)を置く。

(組織)

第2条 審議会の委員の定数は、10人以内とする。

2 特別の事項を調査審議するため、必要があるときは、審議会に臨時委員を置くことができる。

3 審議会の委員及び臨時委員は、スポーツに関する学識経験のある者及び関係行政機関の職員のうちから、教育委員会が委嘱する。

(任期)

第3条 審議会の委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 審議会の委員は、再任されることができる。

3 臨時委員は、特別の事項に関する調査審議を終了したときは、退任するものとする。

(施行細則)

第4条 この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会が定める。

8 第27期 札幌市スポーツ推進審議会名簿

審議会役職	氏名	職業・役職
会長	石澤 伸弘	北海道教育大学札幌校 教授
副会長	佐藤 美紀子	札幌市体育振興会連絡協議会 幹事
委員	浅香 博文	一般社団法人札幌市障がい者スポーツ協会 会長
	阿部 雅司	元スキーノルディック複合競技選手
	岩崎 亮輔	株式会社コンサドーレ 経営管理本部長
	小野寺 正	札幌市中学校体育連盟 校長理事
	川口 恵子	札幌市スポーツ推進委員会 理事
	長澤 茂嗣	一般財団法人札幌市体育協会 副会長
	西村 光弘	一般社団法人札幌市医師会 理事
	堀田 真理	札幌商工会議所女性会

(委員名は50音順に記載。役職は委員就任時)

9 用語解説

番号	語句	解説
1	健康寿命	健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間のこと。平均寿命との差が短いほど、個人の生活の質が高く保たれているとされている
2	ライフステージ	人間の一生において節目となる出来事(出生、入学、卒業、就職、結婚、出産、子育て、退職など)によって区分される生活環境の段階
3	共生社会	誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会である
4	都市基盤	鉄道・道路・上下水道・公園・緑地・学校や区役所等の建築物など、都市を構成する基盤となる構造物
5	バリアフリー	高齢者や障がいのある方などが、社会生活をしていく上で障壁となるものを除去すること。道路、建物、交通手段など物理的なものだけでなく、社会的、制度的、心理的なものを含めた全ての障がいを無くすこと
6	レガシー	オリンピック・パラリンピック開催を契機として社会に生み出される持続的な効果
7	シティプロモート	まちの魅力を再発見し、創造することで新しい都市の輝きをつくり出すとともに、市民が誇りをもってその魅力を内外に発信することで、世界の人々と多様な関係をつくり出すための一連の活動
8	スポーツツーリズム	スポーツを「観る」「する」ための旅行そのものや周辺地域観光に加え、スポーツを「支える」人々との交流、あるいは生涯スポーツの観点からビジネスなどの多目的での旅行者に対し、旅行先の地域でも主体的にスポーツに親しむことのできる環境の整備、そしてMICE推進の要となる国際競技大会の招致・開催、合宿の招致も包含した、複合的でこれまでにない「豊かな旅行スタイルの創造」を目指すものである
9	スポーツボランティア	スポーツイベントや大会の運営のほかにも、スポーツサークルやクラブチームの運営、指導者や審判、地域のスポーツ活動等のボランティアとして携わることを指す
10	繁忙期と閑散期	札幌市においては、月別の観光客入込数が多い7月～9月(繁忙期)と少ない11月～4月(閑散期)を示している

番号	語句	解説
11	交流人口	観光者などの一時的・短期滞在からなる人口。定住人口(その地域に住んでいる人口、居住人口)に対する概念
12	超高齢社会	総人口に占める65歳以上の人口割合が21%を超える社会のこと。なお、7%以上14%未満を「高齢化社会」14%以上21%未満を「高齢社会」と呼ぶ
13	ビジネスパーソン	20歳代から50歳代にかけての働く世代のこと
14	通年型施設	1年を通じて利用できる施設
15	スポーツ推進委員	スポーツ基本法第32条に基づき、市町村教育委員会が委嘱する非常勤の職員(任期2年)。各地域のスポーツ関係団体と連携を図り、全市及び各区スポーツ事業等の企画・運営及び指導を行うなど、地域スポーツの振興に取り組んでいる
16	体育振興会	地域のスポーツ振興を図ることを目的として、学校を拠点として自主管理運営する、地域住民による組織
17	ウインタースポーツ都市	ウインタースポーツの拠点としての環境・ライフスタイルが充実した都市
18	公衆無線LAN	駅や空港などの公共施設や飲食店などで、ケーブルがなくてもインターネットに接続できる仕組み
19	指定管理者	公の施設の設置目的を効果的に達成するため、法令等に基づき、その施設の管理運営を行うよう、地方公共団体によって指定された、法人その他の団体。
20	直接スポーツ観戦率	成人のうち、年に1回以上スポーツを直接観戦した人の割合
21	スマイル・サポーターズ	冬季アジア札幌大会におけるスポーツボランティアの名称。現在も札幌マラソンや北海道マラソンなどのスポーツイベントにおいてボランティア活動を行っている
22	地域スポーツクラブ	住民がその興味又は関心に応じて身近にスポーツに親しむことができるよう、住民が主体的に運営するスポーツ団体
23	インバウンド	外国人観光客が日本に旅行しに来ること
24	観光資源	観光やレジャーといった余暇を楽しむ需要に応じられる要素のこと

番号	語句	解説
25	ライフスタイル	生活様式、営み方。また、人生観・価値観・習慣などを含めた個人の生き方
26	シビックプライド	市民が、都市を構成する一員であることを自覚し、誇りや愛着をもって、都市をより良くしようとする当事者意識
27	持続可能な開発目標 (SDGs)	2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標。持続可能な世界を実現するための17の目標(ゴール)と169の取組(ターゲット)から構成されている。
28	スポーツ・インテグリティ	ドーピング、八百長、違法賭博、暴力、ハラスメント、差別、団体ガバナンスの欠如等の不正がない状態であり、スポーツに携わる者が自らの規範意識に基づいて誠実に行動することにより実現されるものとして、国際的に重視されている概念
29	アクセシビリティ	年齢や身体障害の有無に関係なく、誰でも必要とする情報に簡単にたどり着け、利用できること
30	コミュニケーションボード	指差しなどにより意思疎通をするため、絵・図や簡易な日本語を記載したボード。知的障がいのある方などとのコミュニケーションを図るため利用される
31	MICE	多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。Meeting(会議・セミナー)、Incentive Travel(Tour)(企業報奨・研修旅行)、Convention(大会・学会・国際会議)、Exhibition(イベント、展示会、見本市)の頭文字をとったもの
32	オリンピック・パラリンピック教育	オリンピック・パラリンピックを題材にして、①スポーツの意義や価値等に対する国民の理解・関心の向上、②障がい者を含めた多くの国民の幼少期から高齢期までの生涯を通じたスポーツへの主体的参画の定着・拡大、③児童生徒を始めとした若者に対する、これからの社会に求められる資質・能力等の育成を推進することを目的とした教育



© SAWGOC / PHOTO KISHIMOTO



さっぽろ市
011-030-0000
00-0-0000

SAPPORO